

中級

# アイヌ語

..... 静内 .....



財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

## このテキストについて

当財団では、2010年度にアイヌ語千歳方言、美幌方言、幌別方言の教科書を作成しました。2011年度は、前年度に作成された教科書を踏襲しつつ改良を加え、静内方言、釧路・白糠方言、十勝方言の教科書を新たに作成しました。

### 編集方針

この本は、アイヌ語を読んで、書いて、簡単な文法がわかるなど、アイヌ語の基礎を学ぶことを目的に編集しました。難しい用語はなるべく使わず、どうしても必要な場合には説明をくわえました。

文法の学習にくわえ、伝統的な言葉あそびや、よく知られた童謡のアイヌ語訳を掲載しています。副教材としてカルタも添え、さまざまな角度から、楽しみながら言葉を身につけられるようにしています。

アイヌ語にはさまざまな方言があり、生活習慣も地域によって多少違います。そうした他地域の言葉・文化に関心を持ち、自分の地域についてもよく知るきっかけとなるよう、必要に応じて他方言についても解説しています。

### 例文と単語について

本書『初級アイヌ語－静内－』の本編の例文と単語は、静内郡静内町に在住された織田ステノ氏（1901頃-1993）から、執筆者の一人である志賀がご教示いただいた内容の他に、白老町のアイヌ民族博物館所蔵の織田氏の音声資料（主に岡田路明氏採録）、Kirsten Regsing氏の著書“The Ainu Language”と奥田統己氏の研究論文（詳細は巻末の引用文献をご覧ください）などから引用させていただきました。なお、単語では静内町の葛野辰次郎さんや狩野義美さんの言葉も引用させていただきました。各ステップの例文は織田氏の実際の発話を掲載したもの、資料の文例をそのまま引用したもの、教科書執筆者による作例が混じっています。また、一部の例文については、このテキストの編集方針に合わせて、単語の組合せの変更をおこなっています。また、各ページで説明したい内容を盛り込むために、短く単純な言いまわしにしてあります。

### 音声について

アイヌ語の発音は日本語と異なっており、特に難しいところは、音声を聞きながら学習する必要があります。この本を教室等で利用するほか、家庭でも利用できるように、例文や単語、言葉あそび、歌などの音声を収録しました。収録に協力してくださったのは、普段は日本語で生活し、アイヌ語は学習によって身につけた方々です。一般に言葉を学ぶときには、もともとその言葉を使っている方から教わるのがよいとされており、これはアイヌ語においても同じことがいえます。しかし、そうしたアイヌ語の発音に触れる機会が少ない中で、最初の手がかりになればという考えから、音声を用意しました。

### 文化的事項について

本書はアイヌ語の教科書ですが、アイヌ文化に関する解説をしたコラムを挿入してあります。これには三つの理由があります。アイヌ語話者の発話の中には、文化的な背景の説明を要する語彙が含まれていることがあります。また、本書を

用いて学習する方の中には、かつての生活習慣について、あわせて学びたいという方も少なくないと考えられます。そして、言葉の学び方は一つではなく、言葉を文化的な文脈の中に位置づけて、時には体験もまじえて習得することが効果を生むことも考えられます。こうした理由から、アイヌ文化についての解説も取り入れることにしました。

この本を通じてアイヌ語に関心を持たれた方は、『中級編』に進んでみてください。さらに学習を進めたい方は、これまでに出版されたより専門的な解説書や視聴覚教材を参照されることをおすすめします。

この本を編集する過程で多くの方にご指導を頂きました。記してお礼申し上げます。

### 【例文・単語】

志賀雪湖（静内方言）、高橋靖以（十勝方言）、田村雅史（釧路・白糠方言）

### 【文法解説】

志賀雪湖（静内方言）、高橋靖以（十勝方言）、田村雅史（釧路・白糠方言）、北原次郎太（執筆協力）、八谷麻衣（執筆協力）

### 【言葉遊び・歌】

北原次郎太、八谷麻衣

### 【音声収録（五十音順）】

加納ルミ子、豊川容子、中井貴規、八谷麻衣、山道ヒビキ、山道陽輪、山本りえ

### 【イラスト】

小笠原小夜、椎名庵

## 凡例

- ・本書のアイヌ語の表記は、主に『アコロイタク』（北海道ウタリ協会 1994）の表記法に基づいています。ただし、いくつか異なる点があります。詳しくは「音節表」を参照してください。
- ・例文は全てカタカナ・ローマ字・逐語訳の併記としました。解説中の例には必要に応じてローマ字を記載し、他はカタカナのみとしました。
- ・カタカナ表記は実際の発音をわかりやすく示すことを意図したものです。一方、ローマ字表記は、辞書検索がしやすいように、個々の語を境界ごとに区切って示しました。
- ・例文の中で、前後の音によって発音が変わる場合、その発音を説明しました。
- ・アクセントを説明する際、アクセントの位置を■で示しました。
- ・ローマ字表記において、人称接辞の境界を＝で示しました。また、音節の切れ目を´（アポストロフィー）で示す場合があります。
- ・ローマ字表記において、日本語の単語は大文字を用いて表記しました。
- ・各課の例文で、その課の学習項目に該当する箇所は太字・下線（カタカナ表記のみ）で示しました。
- ・各課の例文では、その根拠について次のような方法で示しました。
  - ①例文の最後に何もいない場合：  
実際に発話された資料そのままの例文。
  - ②例文の最後に「\*（アステリクス）」が一つの場合\*：  
実際の資料を基に、教科書編集者が単語を入れ替えたり、一部削除したり何らかの手を加えた例文。
  - ③例文の最後に「\*（アステリクス）」が二つの場合\*\*：  
教科書編集者による作例。
- ・例文において、別の文や節に現れる主語、目的語などを（ ）を用いて示す場合があります。

アイヌ語静内方言 中級編 目次

序文…………… 2  
 凡例…………… 5  
 音節表…………… 8  
 ① アイヌ語の発音と表記1…………… 10  
 ② アイヌ語の発音と表記2…………… 12  
 ③ 音の交替とアクセント…………… 14  
 ④ 「～が…する」「～は～である」平叙文…………… 16  
 ⑤ 「はい」「いいえ」で答える疑問文…………… 18  
 ⑥ 疑問詞を用いた表現1…………… 20  
 ⑦ 疑問詞を用いた表現2…………… 22  
 ⑧ 「～しない」否定文…………… 24  
     単語を覚えよう1 ～様子を表す言葉1～…………… 26  
     さまざまなイボロセ1…………… 27  
 ⑨ 「…しなさい」命令文1 1人に対する言い方…………… 28  
 ⑩ 「…しなさい」命令文2 複数の相手に対する言い方…………… 30  
 ⑪ 「…するな」禁止文…………… 32  
 ⑫ 「私が」「あなたが」1人称・2人称単数主格…………… 34  
 ⑬ 「私たちが」「あなたたちが」1人称・2人称複数主格…………… 36  
 ⑭ 「私たちが」包括的1人称複数主格…………… 38  
 ⑮ 「私を」「あなたを」目的格人称…………… 40  
 ⑯ 「私があなを」「あなたが私を」人称の組み合わせ…………… 42  
     単語を覚えよう2 ～様子を表す言葉2～…………… 44  
     さまざまなイボロセ2…………… 45  
 ⑰ 尊敬の表現と不定人称…………… 46  
 ⑱ 「私」「あなた」人称代名詞…………… 48  
 ⑲ 動詞の単数・複数1 形が全く異なる動詞…………… 50  
 ⑳ 動詞の単数・複数2 ン-n単数形、プ-p複数形…………… 52  
 ㉑ 動詞の単数・複数3 母音で単数形、パ-paで複数形…………… 54  
 ㉒ 自動詞・他動詞・複他動詞…………… 56

㉓ 「たくさん」「少し」副詞…………… 58  
 ㉔ 位置関係の表現1 短形と長形…………… 60  
     単語を覚えよう3 ～動作を表す言葉1～…………… 62  
     さまざまなイボロセ3…………… 63  
 ㉕ 位置関係の表現2 位置名詞の人称…………… 64  
 ㉖ 場所の表現…………… 66  
 ㉗ 所有の表現1 名詞の所属形と概念形…………… 68  
 ㉘ 所有の表現2…………… 70  
 ㉙ 親族関係の表現…………… 72  
 ㉚ 形式名詞…………… 74  
 ㉛ 連体修飾表現…………… 76  
 ㉜ 「この」「その」「あの」連体詞…………… 78  
     単語を覚えよう4 ～動作を表す言葉2～…………… 80  
     さまざまなイボロセ4…………… 81  
 ㉝ 「～へ」「～から」格助詞…………… 82  
 ㉞ 「～も」「～だけ」副助詞…………… 84  
 ㉟ 「…した」「これから…する」助動詞…………… 86  
 ㊱ 「…して」「…しながら」接続助詞1…………… 88  
 ㊲ 「…なので」「…すると」接続助詞2…………… 90  
 ㊳ 「…するように」接続助詞3…………… 92  
 ㊴ 接続助詞と動詞を組み合わせた表現1…………… 94  
 ㊵ 接続助詞と動詞を組み合わせた表現2…………… 96  
     単語を覚えよう5 ～程度を表す言葉～…………… 98  
     さまざまなイボロセ5…………… 99  
 ㊶ 「…だよ」「…ですか」終助詞…………… 100  
 ㊷ 形式名詞による文末表現1…………… 102  
 ㊸ 形式名詞による文末表現2…………… 104  
 ㊹ 「…と」引用の表現…………… 106  
 参考文献…………… 108

アイヌ語(北海道方言)の音節(カタカナ表記)

【母音】				
ア	イ	ウ	エ	オ
【子音+母音】				
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		トウ	テ	ト
チャ	チ	チュ/ツ	チェ	チヨ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ		ウ	ウエ	ウオ
【母音+子音】				
アク	イク	ウク	エク	オク
アシ (アス)	イシ (イス)	ウシ (ウス)	エシ (エス)	オシ (オス)
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アプ	イプ	ウプ	エプ	オプ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ (アル)	イリ (イル)	ウル	エレ (エル)	オロ (オル)
アウ			エウ	オウ
【子音(例としてカ行の音)+母音+子音】				
カク	キク	クク	ケク	コク
カシ (カス)	キシ (キス)	クシ (クス)	ケシ (ケス)	コシ (コス)
カツ	キツ	クツ	ケツ	コツ
カン	キン	クン	ケン	コン
カプ	キプ	クプ	ケプ	コプ
カム	キム	クム	ケム	コム
カイ		クイ	ケイ	コイ
カラ (カル)	キリ (キル)	クル	ケレ (ケル)	コロ (コル)
カウ	キウ		ケウ	コウ

\* ( ) で示した音節は、単語によって固定されていたり、実際の発音を聞くと、同じ単語でも二通りの発音が聞かれる音節です。

\* 例文の中で、前後の音によって発音が変わる場合、その発音を下線で示しました。

アイヌ語(北海道方言)の音節(ローマ字表記)

【母音】				
a	i	u	e	o
【子音+母音】				
ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa		wu	we	wo
【母音+子音】				
ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy
ar	ir	ur	er	or
aw	iw		ew	ow
【子音(例として K)+母音+子音】				
kak	kik	kuk	kek	kok
kas	kis	kus	kes	kos
kat	kit	kut	ket	kot
kan	kin	kun	ken	kon
kap	kip	kup	kep	kop
kam	kim	kum	kem	kom
kay		kuy	key	koy
kar	kir	kur	ker	kor
kaw	kiw		kew	kow

## ステップ1 アイヌ語の発音と表記1

### アイヌ語の音

アイヌ語の音は5つの母音(a, i, u, e, o)と11の子音(c, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y)の組み合わせでできています。これらの音を表記する場合、カタカナまたはローマ字が用いられます。

### 音節（音の組み合わせ）

音の組み合わせのパターンには、次の4つがあります。

- ①母音                   エ e 「～が～を食べる」
- ②子音+母音           マ ma 「～が泳ぐ」
- ③母音+子音           エク ek 「～が来る」
- ④子音+母音+子音   チク cik 「～が滴る」

このような音の組み合わせの単位を「音節」と呼びます。①②のように母音で終わるものを「開音節」、③④のように子音で終わるものを「閉音節」と呼びます。

### 発音と表記のポイント

開音節について、発音と表記のポイントを説明します。

- (1)「母音」は「ア a, イ i, ウ u, エ e, オ o」で表記します。母音の発音は、日本語とほぼ同じですが、「ウ」は日本語よりもやや口の奥で発音されます。そのため、聞き取りが難しくなることがあります。また、地域や個人によっても多少発音が異なります。
- (2)「子音+母音」は日本語のカ行以降のカタカナと同じように書き表します。ただし、カ行とガ行、タ行とダ行、パ行とバ行の区別(無声音と有声音の区別)はアイヌ語にはありません。また、サ行とシャ行の区別もありません(例えば、**スサム** susam 「シシャモ」を**シュシヤム**と発音しても、言葉の意味は変わりません)。
- (3)タ行は「タ ta, トゥ tu, テ te, ト to」です。「ティ ti」の音はアイヌ語にはありません。
- (4)チャ行は「チャ ca, チ ci, チュ cu, チェ ce, チョ co」と表記されます。
- (5)ヤ行は「ヤ ya, イ yi, ユ yu, イェ ye, ヨ yo」です。イェは、「イ」と「エ」をつなげて発音します。なお、「イ yi」は単語の先頭には現れません。yi は y で終わる形と i で始まる形が、単語の中で続いた場合にあらわれます。

- (6)ワ行は「ワ wa, ウ wu, ウェ we, ウォ wo」です。「ウェ」は「ウェブ」の「ウエ」のように、「ウ」と「エ」をつなげて発音します。「ウォ」は「ウ」と「オ」をつなげて発音します。なお、「ウ wu」は単語の先頭には現れません。wu は w で終わる形と u で始まる形が、単語の中で続いた場合に現れます。

## ステップ2 アイヌ語の発音と表記2

### 音節末の子音の表記

閉音節について、表記のポイントを説明します。

(1) 閉音節の末尾には、k, m, n, p, r, s, t, w, y が現れます。c は閉音節の末尾には現れません。h が閉音節の末尾に現れるのは、主にサハリンの方言だけです。

(2) カタカナでは、閉音節の末尾の音を小文字で表記します。閉音節の末尾の k, m, p, s, t は小文字の「ク、ム、プ、シ(ス)、ツ」で表記します。

サク sak 「～が～を欠く」 モム mom 「～が流れる」 フプ hup 「～が腫れる」

チシ cis 「～が泣く」 サツ sat 「～が乾く」

(3) m の後に p が続くときは「ン」で表記します。

トウンプ tumpu 「部屋」 サンペ sampe 「心臓」

(4) 閉音節の末尾の r は、前の母音と対応するラ行の小文字で表記します。r の音は、軽く舌先ではじくような発音です。

カラ kar 「～が～を作る」 ピリ pir 「傷」 クル kur 「人、影」 ケレ ker 「履物」

コロ kor 「～が～を持つ」

(5) n, w, y は子音ですが、カタカナは大文字のまま表記します。

ラン ran 「～が下りる」 マウ maw 「風」 スイ suy 「穴」

なお、この方法では、「イ」に y と i、「ウ」に w と u という二つの音が割り当てられることとなります。これを避けるために、w や y にあたる部分を小文字で表記する方法もあります。

マウ maw 「風」 スイ suy 「穴」

(6) 子音の連続 -kk-, -tk-, -pp-, -ss-, -tp-, -tt- は「ッ」で表記します。カタカナでは「ッ」ですが、ローマ字の表記を見ると全て違う音であることがわかります。

ワッカ wakka 「水」 カツケマツ katkemat 「婦人」 チカッポ cikappo 「小鳥」

フッサ hussa 「おはらいの息」 ミッポ mitpo 「孫」 ヘカッタラ hekattara 「子供達」

なお、音の違いをより厳密に表記するという立場もあり、それに従うと、上記の単語はこのように表記されます。

ワッカ wakka 「水」 カツケマツ katkemat 「婦人」 チカッポ cikappo 「小鳥」

フッサ hussa 「おはらいの息」 ミッポ mitpo 「孫」 ヘカッタラ hekattara 「子供達」

## ステップ3 音の交替とアクセント

### 音の交替

アイヌ語では、単語の最後の音と、次の単語の最初の音がつながった時に、音が交替することがあります。

モコロ mokor 「～が眠る」 + ルスイ rusuy 「～したい」  
→ モコン ルスイ mokor rusuy 「～が眠りたい」

ウサラ usar 「下座」 + タ ta 「～に」  
→ ウサツ タ usar ta 「下座に」

ナンコロ nankor 「～だろう」 + ナ na 「～だよ」  
→ ナンコン ナ nankor na 「～だろうよ」

モム mom 「～が流れる」 + ワ wa 「～して」  
→ モム マ mom wa 「～が流れて」

このような音の交替には、方言による差がみられます。ひとつずつ事例を覚えていきましょう。

このテキストでは、音が交替するときは、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

### 音の連結

閉音節の単語（子音で終わる単語）の後に、母音で始まる単語がくると、二つの単語が続けて発音されることがあります。

ペツ pet 「川」 オロ or 「ところ」 ウン un 「～へ」  
→ ペトルン pet or un 「川のところへ」

サブ sap 「～が下る」 アン =an 「私たちが」 アクス akus 「…すると」  
→ サブアナクス sap=an akus 「私たちが下ると」

このテキストでは、音が続けて発音される場合も、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

### アクセント

静内方言はアクセントによる単語の区別を持たない方言だとされています。

初級と同じように、中級でも、アクセントの区別とはどういうことかを理解するために、アクセントの区別がある方言の「アクセント」について説明します。

なおこのステップに出てくる単語はアクセントの区別がある十勝・帯広方言の単語ですが、静内方言でも使う単語がほとんどです。

アイヌ語のアクセントには、次の2つの規則があります。

(1) 最初の音節が開音節のときは、2番目の音節が高く発音されます(ただし、一部例外があります)。

パケ pake 「頭」 シタ sita 「犬」 ノヤ noya 「ヨモギ」

\* シタ sita 「犬」は静内方言ではセタ seta 「犬」といいます。

(2) 最初の音節が閉音節のときは、最初の音節が高く発音されます。

アイヌ aynu 「人間」 パシクル paskur 「カラス」 スンク sunku 「エゾマツ」

アクセントの規則には例外があります。以下の単語は、最初の音節が開音節で、アクセントが最初の音節にあるものです。このような単語は、個々にアクセントを覚える必要があります。

エカシ ekasi 「祖父」 フチ huci 「祖母」 ミチ mici 「父」 ハポ hapo 「母」  
レラ rera 「風」 フラ hura 「匂い」 ウナ una 「灰」 ウセイ usey 「湯」

## ステップ4 「～が…する」「～は～である」平叙文

(例文)

- ルヤンペ クル エク ナ。  
 ruyanpe kur ek na.  
 雨 雲 来る よ  
 「雨雲が来るぞ」
- クカルク ヘペン レス。\*  
 ku=karku heper resu.  
 私の・甥 こぐま 育てる  
 「私の甥がこぐまを育てた」  
 \*ヘペル heper はレス resu の前でヘペンと発音されます。
- フチ オハウコプ フライエ ワ フンパフンパ。\*\*  
 huci ohawkop huraye wa humpahumpa.  
 祖母 おつゆの実 洗う て 刻む  
 「祖母はお汁の実を洗って刻んだ」
- カパルペ オッチケ カパルペ イタンキ ウオルヌ。\*  
 kaparpe otcike kaparpe itanki uorunu.  
 薄いもの お膳 薄いもの お椀 重ねる  
 「薄造りのお膳に薄造りのお椀をのせた」
- テエタ ワノ アコタヌフ ヌツカ コタン ネ ワ… \*  
 teeta wano a=kotanuhu nupka kotan ne wa...  
 昔 から 私達の・村 高台 村 である て  
 「昔から私たちの村はヌツカコタンという高台の集落でして…」

## 「～が…する」「～は～である」の言い方

(初級ステップ6,8参照)

「～が…する」「～が～である」のようなタイプの文を平叙文と呼びます。平叙文には、主に次のようなタイプがあります。

主語 (名詞) + 自動詞

主語 (名詞) + 目的語 (名詞) + 他動詞

主語 (名詞) + 補語 (名詞) + 指定詞 (ネ ne 「～が～である」)

上記のように、主語や目的語などの名詞は動詞の前に置かれます。

なお、アイヌ語では主語や目的語を示す「が」や「を」という言葉はありません。

また、動詞には「…する」「…した」のような現在と過去の区別はありません。

## ステップ5 「はい」「いいえ」で答える疑問文

(例文)

1. アプンノ エチオカ?  
 apunno eci=oka?  
 静かに おまえたちが・いる  
 「何事もなくいましたか？」
2. ネブ へ?  
 nep he?  
 何 か  
 「何だ？」
3. イラムキッタ! アンペ へ?  
 iramkitta! anpe he?  
 驚いたなあ 本当 か  
 「驚いたなあ、本当か」
4. 「ハポ イェ ユカル エンタ?」アリ クヤイヌ。  
 “hapo ye yukar enta?” ari ku=yaynu.  
 母親 言う 英雄叙事詩 か と 私が・思う  
 『母さんが言った英雄叙事詩か』と私は思った」
5. タスム エンタ アナ?  
 tasum enta an ya?  
 病気 か ある か  
 「病気か？」  
 \*アン ヤ an ya はひとまとまりに発音されてアナとなります。
6. エアムキリ ウタラ エンタ アナ?  
 e=amkir utar enta an ya?  
 おまえが・知っている 人たち か ある か  
 「おまえの知ってる人たちか？」  
 \*アン ヤ an ya は、ひとまとまりに発音されてアナとなります。

## 「はい」「いいえ」で答える疑問文

(初級ステップ9,10参照)

「～か」という疑問文にはいくつかのパターンがあります。  
 このステップでは「はい」「いいえ」で答える疑問文について説明します。

- (1) 平叙文や否定文の文末を高く上げて発音すると、「はい」「いいえ」で答える疑問文になります(例文1)。
- (2) 名詞のあとに副助詞へ he 「～か」を使った言い方は静内ではあまり用例がありません(例文2,3)。**ネペタ nepeta**「えっ何だって」という間投詞がよく使われます。
- (3) 名詞の後に副助詞エンタ enta 「か」あるいはエンタ アナ enta an ya? をおいて疑問文をつくることができます(例文4,5,6)。
- (4) 動詞の後にヤ ya 「～か?」という終助詞をつける言い方は、静内方言ではほとんど用例がありません。

これらの疑問に答える場合、「いいえ」ならば**ソモ somo**と一言で答えることができます。

「はい」の場合は、**エ e**、と一言で答える方言もありますが、静内方言ではこの言い方がありません。

## ステップ6 疑問詞を用いた表現1

(例文)

1. トオン ホシ ネン カル ペ タ アン?  
 toon hos nen kar pe ta an?  
 あの 脚絆 誰 作る もの か ある  
 「あの脚絆は誰が作ったものですか?」
2. トオンタ ハチル ワ アン ペ ネプ タ アン?  
 toonta hacir wa an pe nep ta an?  
 あそこに 落ちる て いる もの 何 か ある  
 「あそこに落ちているものは何ですか?」
3. ネイ タ パクノ クオイラ カ ソモ キ。\*  
 ney ta pakno ku=oyra ka somo ki  
 どこ に まで 私が・忘れる も (否定) する  
 「いつまでも、私は忘れない」
4. トオンタ ネプ カ アイシトマ プ アン ナ.  
 toonta nep ka ay=sitoma p an na.  
 あそこに 何 か 人が・恐れる もの ある よ  
 「あそこに何か恐ろしいものがあるよ」
5. イネヘンパク ト オカアン コンノ シネアン ト タ…  
 inehempak to oka=an konno sinean to ta…  
 いくつの 日 いる・私たちが と とある 日 に  
 「何日も過ごしていると、ある日…」

## 疑問詞による疑問文1

(初級ステップ26,27参照)

このステップでは、疑問名詞、疑問連体詞を用いた疑問文について説明します。これらの疑問詞は「何?」「誰?」のように単独で使うことはありません。たとえば、**ネプnep**だけで「何?」という疑問の意味になることはなく、例文のように他の語句と組み合わせて用いられます。

(1) 疑問名詞には次のような語があります。

これらの疑問名詞は動詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

**ネンnen**「誰」 **ネプnep**「何」 **ネイney**「どこ」 (例文1,2)

(2) 疑問連体詞には次のような語があります。

これらの疑問連体詞は名詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

**ヘンパクhempak**「いくつの」 **インキアンinkian**「どちらの」

(3) これらの疑問名詞、疑問連体詞は、対象を特定しない不定の疑問の表現にも用いられます(例文3,4,5)。

## ステップ7 疑問詞を用いた表現2

(例文)

1. オノン エエク ルウエ タ アン? \*\*  
 onon e=ek ruwe ta an?  
 どこから あなたが・来る の か ある

「どこから来たんですか？」

2. エノン エオマン クスキ シリ タ アン?  
 enon e=oman kuski siri ta an?  
 どこへ あなたが・行く つもりだ 様子 か ある

「どこへ行くつもりなんですか？」

3. ヘンパラ エホプニ クス タ エアン ルウエ アン。  
 hempara e=hopuni kus ta e=an ruwe an?  
 いつ おまえが・起上がる ために か おまえが・いる の ある

「いったいおまえは、いつ起きるつもりでいるの？」

4. ネコン レコル ペ ヤ クエランペウテク。  
 nekon rekor pe ya ku=erampewtek.  
 どう 名前を持つ もの か 私が・分からない

「どういう名前のもなのか私は分かりません」

5. オノン タ シノ ニシパ チセ アツカリ クスキ。\*  
 onon ta sino nispa cise akkari kuski.  
 どこから か 本当の 紳士 家 通り越す しそうだ

「どこからか立派な男性が家を通りかかった。」

## 疑問詞による疑問文2

(初級ステップ26,27参照)

このステップでは、疑問副詞を用いた疑問文について説明します。

アイヌ語の疑問副詞には、日本語の「いつ?」「どう?」のように単独で使う言い方がありません。

(1) 疑問副詞には次のような語があります。

これらの疑問副詞は動詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

オノン	onon	「どこから」(例文1)
エノン	enon	「どこへ」(例文2)
ヘンパラ	hempara	「いつ」(例文3)
ネコン	nekon	「どう」(例文4)

(2) これらの疑問副詞は、例文5のように、対象を特定しない表現にも用いられます。

## ステップ8 「～しない」否定文

(例文)

1. ソモ クオマン。                      ソモ クシネウエ。  
 somo ku=oman.                      somo ku=sinewe.  
 (否定) 私が・行く                      (否定) 私が訪問する  
 「私は行きません。訪問しません」
  
2. ホモ オリパク ノ アイヌ コツチャケ      ペカ ノ ッテスス… \*  
 homo oripak no aynu kotcake      peka nottesusu…  
 (否定) 遠慮する で 人間 前                      を あごを突き出す  
 「遠慮しないで人の前をあごを突き出し…」
  
3. ネブ クス      エホモイタク                      ワ                      エアン \*  
 nep kus      e=homoitak                      wa                      e=an  
 何 ために おまえが・言わない                      て                      おまえが・いる  
 「どうしておまえは何も言わないでいるの」
  
4. クポホ      ヘンネ エチヌカラ? \*  
 ku=poho      henne eci=nukar?  
 私の・息子 (否定) おまえたちが・見る  
 「私の息子を見なかったか？」
  
5. ヘンネ ワ。                      ソモ クテムテム      ワ。  
 henne wa.                      somo ku=temtemu wa.  
 (否定) よ                      (否定) 私が触る                      よ  
 「いいえ。私は触ってないよ」
  
6. アチャポ ウタル イエ プ      エヌ                      ケンネ      キ      ヤクン  
 acapo utar ye p      e=nu                      kenne      ki      yakun…  
 おじさん たち 言う もの おまえが聞く (否定) する たら  
 「おじさんたちの言うことをおまえが聞かなかったら…」

### 「～しない」の言い方

(初級ステップ7参照)

「…しない」「～ではない」などの否定の表現には **ソモ somo** という言葉が用いられます。

**ソモ somo** は副詞ですから、動詞の前に置かれます。例文1では **クオマン ku=oman** 「私が行く」 **クシネウエ ku=sinewe** 「訪問する」という動詞の前に **ソモ somo** が置かれ、「私は行かない」「私は訪問しない」という否定文がつくられています。

また、動詞の後ろに **カソモ キ ka somo ki** 「～しない」というフレーズを置いて否定の意味を表すこともできます(初級例文2)。**カ ka** 「も」は否定の焦点を示す副助詞です。

静内の織田ステノさんの場合、**ソモ somo** の他に、**ホモ homo**、**ヘンネ henne**、**ケンネ kenne** などの否定辞(動詞を否定する副詞)も使います。

それぞれの否定辞と動詞の位置関係はつぎの表のようになっています。ただし、これらの語の意味の違いについては、よく分かっていません。

織田さんの否定辞(4語)の動詞との位置関係

否定辞	動詞の前	動詞の後
<b>ソモ somo</b>	<b>ソモ + 動詞</b>	動詞 + (カ) <b>ソモ キ</b>
<b>ホモ homo</b>	<b>ホモ + 動詞</b> <b>ホモ - 動詞</b>	なし
<b>ヘンネ henne</b>	<b>ヘンネ + 動詞</b>	動詞 (カ) <b>ヘンネ キ</b>
<b>ケンネ kenne</b>	なし	動詞 + <b>ケンネ キ</b>

※ **ホモ homo** については、動詞が3人称の場合、**ホモ + 動詞** (**ホモ** と動詞は独立している2語) なのか **ホモ - 動詞** (**ホモ** が動詞に接頭して一語) なのか判断できません。

また、織田さんの用例では、動詞の人称形 (**クオマン ku=oman** など) の前に **ホモ homo** が使われた例は今のところ確認できていません。

単語を覚えよう1 ～様子を表す言葉1～

1.	ピリカ	pirka	「～が良い」
2.	ウェン	wen	「～が悪い」
3.	ポロ	poro	「～が大きい」
4.	ポン	pon	「～が小さい」
5.	タンネ	tanne	「～が長い」
6.	タクネ	takne	「～が短い」
7.	ルイエ	ruye	「～が太い」
8.	アネ	ane	「～が細い」
9.	ハンケ	hanke	「～が近い」
10.	トゥイマ	tuyma	「～が遠い」

さまざまなイポロセ1

沙流・静内地方

◇富川 年賀状の文

① タアン アシリ パ ソンノ ヌペツネノ  
 taan asir pa sonno nupetneno  
 この新しい年に心から慶びながら

アコシキリパ。サクパ オッタ  
 a=kosikirpa. sakpa or ta  
 向かいます。(昨年の) 夏期と

ネノカネ ピリカスクプアン クニ  
 neno kane pirkasukup=an kuni  
 同様に健やかな暮らしをなさるよう

カムイ オルン クオンカミ ナ。  
 kamuy orun ku=onkami na.  
 カムイに祈念申し上げます。

(書き手：鍋沢元蔵さん)

※下線部分にあたる別の言い方としてアシリパ アウクワ シノ ケヤイコプンテクナ  
 「新しい年を取り、本当に嬉しく思っています」という表現もあります。

◇東静内 年賀状の文

アシリパ オッタ ヌプルカンピ  
 asir pa or ta nupurkampi  
 新年にあたっての尊いお手紙(賀状)に

パセノポ クオンカミ ナ。  
 pasenopo ku=onkami na.  
 丁重に拝礼します。

ピリカ アシリ パ アノシキル キワ  
 pirka asir pa an=osikiru ki wa  
 良い年をお迎えになり

イワンケアン ワ ピリカモンライケアン クニ  
 iwanke=an wa pirkamonrayke=an kuni  
 お達者で、良いお仕事をなさいますように

クオンカミ ナ。パセノポ イヤイライケレ。  
 ku=onkami na. pasenopo iyayraykere.  
 ご祈念申し上げます。誠にありがとうございます。

(書き手：佐々木太郎さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

ステップ9 「…しなさい」 命令文 1 一人に対する言い方

(例文)

1. ソンノ ソンノ ヘタク ホプニ!  
 sonno sonno hetak hopuni  
 本当に 本当に さあ 起きあがる  
 「ほんとにまあ、さあ起きろ」
2. エムコタ モナア。  
 emkota monaa  
 早く 座る  
 「早く座りなさい」
3. モシマノ アン。  
 mosmano an  
 黙って いる  
 「黙っていなさい」
4. コルシ! サポ ピッコキシマ アニ!  
 kors! sapo pitkokisma ani.  
 こども お姉さん しっかりつかむ ね  
 「子よ、姉さんをしっかりつかみなさいね」

「～しなさい」の言い方1

(初級ステップ12 参照)

「…しなさい」という命令文には、いくつかのパターンがあります。

- (1) 命令の表現には、動詞をそのまま用いることができます(例文1～4)。ただし、命令の表現では、命令する相手を表す人称接辞(ステップ12 参照)はつきません。  
 例えば、**エヌカラ e=nukar**「あなたが見る」という表現は、「見なさい」という命令の意味では通常用いません。
- (2) 念を押すような命令の表現には、**アニ ani**「…しなさい」という終助詞を用います(例文4)。

ステップ10 「…しなさい」 命令文2 複数の相手に対する言い方

(例文)

1. **ヘタク ヘタク エムコタ ソイエンパ ヤン!**  
 hetak hetak emkota soyenpa yan.  
 さあ さあ はやく 外に出る  
 「さあさあ、早く出かせなさい」
  
2. **コラチ イキ ヤン マ シト マ ワ エ ヤン!**  
 koraci iki yan wa sito ma wa e yan.  
 このように する なさい て 団子 焼く て 食べる なさい  
 「このようにして団子を焼いて食べなさい」
  
3. **イワンケ ワ オカ ヤナニ。**  
 iwanke wa oka yan ani.  
 元気だ て いる なさい ね  
 「元気でいなさいね」
  
4. **エソイエネ エトク タ エコロ ハポ オルン**  
 e=soyene etok ta e=kor hapo or un  
 おまえが・外に出る 前 に おまえが・持つ お母さん の所 へ  
**エイエ ナンコロ。**  
 e=ye nankor  
 おまえが・言う だろう  
 「おまえは、出かける前にお母さんに言うんだよ」  
 \*オロ ウン or un は続けて発音されてオルンとなります。

「～しなさい」の言い方2

(初級ステップ12 参照)

このステップでは、複数の相手に対する命令表現、丁寧な命令の表現について説明します。

- (1) 複数の相手に対する命令には、**ヤン yan** 「…しなさい」という終助詞が用いられます(例文1)。なお、単数と複数の区別がある動詞の場合、**ヤン yan** は複数形の動詞の後に置きます(例：**アルキ ヤン arki yan** 「来なさい(アルキはエクの複数形)」)。

例文1：**ソイエンパ soyenpa** 「外へ出る」は、**ソイエネ soyene** の複数形

例文3：**オカ oka** 「ある、いる」は、**アン an** の複数形

- (2) **ヤン yan** を単独の相手に対して用いると、丁寧な命令の表現となります。
- (3) **ヤン yan** とステップ9の**アニ ani**、**ハニ hani** は、組み合わせて用いられることがあります。その場合は、**ヤナニ yan ani** という言い方になります(例文3)。
- (4) **ナンコロ nankor** 「…するだろう」という助動詞を用いると、遠まわしな命令命令表現になります(例文4)。  
 なお、**ナンコロ nankor** を用いた命令表現では、例外的に命令する相手を表す人称接辞をつけます。

## ステップ11 「…するな」禁止文

(例文)

1. イテツケ モイモイケ!  
itekke moymoyke!  
(禁止) 動く  
「動くな」
2. イテツケ エヤブキル ヤン!  
itekke eyapkir yan!  
(禁止) 投げる なさい  
「投げてはいけません」
3. フチ イエ ウウエペケル イテツケ オイラ アニ! \*  
huci ye uwepeker itekke oyra ani!  
祖母 言う 散文説話 (禁止) 忘れる よ  
「祖母が言った散文説話を忘れないのよ」
4. アン エタプ パクノ イテツケ ネプ イエ ハニ! \*  
an etap pakno itekke nep ye hani!  
夜 だか まで (禁止) 何 言う よ  
「夜だか、それまで何も言わないのよ」

## 「…するな」の言い方

(初級ステップ12参照)

「…するな」という禁止の表現にはイテツケ itekkeという言葉を用います。  
イテツケは副詞ですから、動詞の前に置きます。

例文 1～4では「モイモイケ moymoyke」「エヤブキル eyapkir」「オイラ oyra」「イエ ye」という動詞の前にイテツケ itekkeが置かれ、「動くな」「投げるな」「忘れるな」「言うな」という禁止の表現がつくられています。

なお、命令の表現と同じように禁止の表現でも、聞き手を表す人称接辞はつけません。

また、禁止の表現にも、ヤン yanやハニ hani アニ aniなどの命令を表す終助詞を使うことができます(例文2,3,4)。

ステップ12 「私が」「あなたが」1人称・2人称単数主格

(例文)

- クアツカシ アイネ クニチツネ。  
 ku=apkas ayne ku=nicitne.  
 私が・歩く てついに 私が・足が棒のようになる  
 「私は歩きつづけたあげく足が棒になった」
- ニサツポネ ルヤンペ クル アン マ ソイエンパ ウタラ\*  
 nisappone ruyanpe kur an wa soyenpa utar  
 急に 雨 雲 ある て 外に出る 人々  
クエニソマツ カネ クアン。  
 ku=enisomap kane ku=an.  
 私が・心配する ながら 私が・いる  
 「急に雨雲が出てきて出かけた人たちのことが心配になってきた」  
 \*ワ wa はアンのとに続くとマと発音されます。
- キム ペカ エオマナン マ エホメル  
 kim peka e=omanan wa e=homeru  
 山 を おまえが・歩き回る て お前が・怪我をする  
 カ ソモ キ ノ エホシピ ワ ピリカ。  
 ka somo ki no e=hosipi wa pirka.  
 も (否定) する で おまえが・帰る て 良い  
 「おまえは山を歩いて怪我もしないで帰って来て良かった」  
 \*ワ wa はアンのとに続くとマと発音されます。
- ネツ エカル ワ エニサピヒ エコツカサパ  
 nep e=kar wa e=nisapihi e=kokkasapa  
 何 おまえが・する て おまえの・すね おまえの・ひざ  
 カツ ピツテク ルウェ タ アン  
 kapu pittek ruwe ta an?  
 皮 むける の か ある  
 「あなたは何をして、すねとひざの皮がむけたのですか」

「私が」「あなたが」の表現

(初級ステップ14参照)

アイヌ語の動詞は、人称によって形が変化します。人称を表す言葉は動詞に付属するもので、人称接辞と呼ばれます。人称接辞には、主語を表すもの(主格人称接辞)と目的語を表すもの(目的格人称接辞)があります。

このステップでは、「私が(1人称単数主格)」「あなたが(2人称単数主格)」の表現について説明します。

- 「私が…する」と表現する場合には、動詞の前にク ku=「私が」をつけます(例文1,2)。
- 「あなたが…する」と表現する場合には、動詞の前にエ e=「あなたが」をつけます(例文3,4)。
- アイヌ語では、文の中の全ての動詞に人称接辞がつきます(例文参照)。日本語の「私が(は)」「あなたが(は)」という言葉とは使い方が異なりますので、注意する必要があります。
- 静内方言にはアクセントの区別がありませんが、アクセントの区別のある方言では、動詞の前にク ku= やエ e= がつくると、アクセントが移動する場合があります(アクセントの規則についてはステップ3を参照してください)。

モコロ mokor 「～が眠る」 → クモコロ ku=mokor 「私が眠る」

ヌカラ nukar 「～が～を見る」 → エヌカラ e=nukar 「あなたが～を見る」

ステップ13 「私たちが」「あなたたちが」1人称・2人称複数主格

(例文)

- フチ カル ワ ネアン ペ ケライ チエ。  
 huci kar wa nean pe keray ci=e.  
 祖母 作る て その もの だけ 私達が・食べる  
 「祖母が(食事を)作って、それだけを私たちは食べました」
- カムイ フチ サンリルケセ チネ  
 kamuy huci sanrirkese ci=ne.  
 神様 おばあさん 子孫 私達が・である  
 「私達は火の神さまの子孫です」
- テエタ ワノ フチ ウタラ イエ ハウエ  
 teeta wano huci utar ye hawe  
 昔 から 祖母 たち 言う 声  
 チヌ カネ オカアシ。  
 ci=nu kane oka=as.  
 私達が・聞く ながら いる・私達が  
 「昔から祖母達と言ったのを私たちは聞いていました。」
- アプンノ エチオカ？  
 apunno eci=oka?  
 静かに おまえたちが・いる  
 エチイワンケ ワ エチオカ ルウェ エンタ アナ  
 eci=iwanke wa eci=oka ruwe enta an ya?  
 おまえたちが・元気だ て おまえたちが・いる の か ある か  
 「あなたたちは何事もなくいましたか？ 元気でいましたか？」

「私たちが」「あなたたちが」の表現

(初級ステップ15,20参照)

このステップでは、「私たちが(1人称複数主格)」「あなたたちが(2人称複数主格)」の表現について説明します。

なお、「私たちが」の表現には、聞き手を含む場合(包括的1人称複数主格)と聞き手を含まない場合(除外的1人称複数主格)の二通りの表現があります。

聞き手を含む「私たちが」の表現については、ステップ14で説明します。

- 聞き手を含まずに「私たちが…する」と表現する場合には、動詞にチ ci=「私たちが」またはアシ=as「私たちが」をつけます。チ ci=は他動詞とネ neの前につく形です(例文1,2,3)。アシ=asは自動詞の後ろにつく形です(例文3)。
- 「あなたたちが…する」と表現する場合には、動詞の前にエチ eci=「あなたたちが」をつけます(例文4)。
- 単数・複数の区別がある自動詞の場合、アシ=as やエチ eci=は複数の形につきます(例文3,4)。
- 静内方言にはアクセントの区別がありませんが、アクセントの区別のある方言では、他動詞の前にチ ci=がつくと、アクセントが移動する場合があります。また、自動詞の後ろにアシ=asがつくと、アシ=asにもアクセントが置かれます。

ヌカラ nukar 「～が～を見る」→チヌカラ ci=nukar 「私たちが～を見る」

ホツケ hokke 「～が寝る」→ホツケアシ hokke=as 「私たちが寝る」

- 静内方言にはアクセントの区別がありませんが、アクセントの区別のある方言では、動詞の前にエチ eci=がつく場合、アクセントは移動しません。

ヌカラ nukar 「～が～を見る」→エチヌカラ eci=nukar 「あなたたちが～を見る」

静内	除外的 1人称複数 (聞き手を含まない)	包括的 1人称複数 (聞き手を含む)
自動詞		
名詞 他動詞		

静内ではa=もan=も使いますがkorの場合はa=が多く使われます。

ステップ14 「私たちが」 包括的 1人称複数主格

(例文)

- アニコロ** イタク。  
 an=kor itak.  
 私たちが・持つ 言葉  
 「アイヌ語」
- アコロ** ナイ オツ タ オマン マ スマ エヤプキリ。\*  
 a=kor nay or ta oman wa suma eyapkir.  
 私たちが・持つ 沢 のところに 行く て 石 投げる  
 「私たちの沢へ行って（彼は）石を投じた」  
 \*オロorはタtaの前でオツと発音されます。
- エノン カ パイエアン**。  
 enon ka paye=an.  
 どこへ か 行く・私たちが  
 「どこかへ行きましょう」
- ヘムカ！ チセ カムイ ハチリ ワ**  
 hemka! cise kamuy hacir wa  
 大変だ 家 神 落ちる て  
**チヨルポケ タ オカアン ルウェ ネ ワ**。  
 corpoke ta oka=an ruwe ne wa.  
 下 に いる・私たちが の だよ  
 「大変だ！家の神様が倒れてその下に私たちはいるのだよ」

聞き手を含む「私たちが」の表現

(初級ステップ16,21参照)

このステップでは、聞き手を含む「私たちが」の表現（包括的1人称複数主格）について説明します。

(1) 聞き手を含めて「私たちが…する」と表現する場合には、動詞に**ア a=**「私たちが」、**アン an=**「私たちが」または**アン=an**「私たちが」をつけます。

**ア a=**と**アン an=**は他動詞の前につく形です（例文1,2）。  
**アン=an**は自動詞の後ろにつく形です（例文3,4）。

(2) 単数・複数の区別がある自動詞の場合、**アン=an**は複数の形につきます（例文3,4）。

(3) 静内方言にはアクセントの区別はありませんが、アクセントの区別のある方言では、他動詞の前に**ア a=**、**アン an=**がつく場合、アクセントは移動しません。一方、自動詞の後ろに**アン=an**がつくと、**アン=an**にもアクセントが置かれます。

**ヌカラ nukar**「～が～を見る」→**アヌカラ a=nukar**「私たちが～を見る」

**アマ ama**「～が～を置く」→**アナマ an=ama**「私たちが～を置く」

**ホツケ hokke**「～が寝る」→**ホツケアン hokke=an**「私たちが寝る」

静内	① ② ③ 1人称複数 除外的 (聞き手を含まない)	① ② ③ 1人称複数 包括的 (聞き手を含む)
自動詞		
名詞 他動詞		

静内ではa=もan=も使いますがkorの場合はa=が多く使われます。

ステップ 15 「私を」「あなたを」目的格人称

(例文)

1. ヤ ペカ ホユツパ チプ クオ ワ  
 ya peka hoyuppa cip ku=o wa  
 陸 を 走る 舟 私が・乗る て  
 コルシ ウタラ エンラ。  
 korsī utar en=rura.  
 子ども たち 私を・運ぶ  
 「私は自動車に乗って、子どもたちが私を送ってくれる」
  
2. タア アチャポ ウタラ ウンチプオレ。\*  
 taa acapo utar un=cip'ore  
 このように おじさん たち 私たちを・舟に乗せる  
 「このようにおじさんたちが私を舟に乗せた」
  
3. ネプ クス イコイルシカ? \*\*  
 nep kus i=koiruska?  
 何 ために 私達に・腹を立てる  
 「何故、彼は私たちに腹をたてたの？」
  
4. アウ タ オカ コルシ ウタラ エシレン クス  
 aw ta oka korsī utar e=siren kus  
 隣 に いる 子ども たち おまえを・誘う ために  
 アルキ ルウエ ネ ナ。  
 arki ruwe ne na.  
 来る の だよ  
 「隣の子どもたちがおまえを誘いに来たんだよ」
  
5. オツカイ ニシパ エチコイルシカ ナ。  
 okkay nispa eci=koiruska na.  
 男 立派な人 おまえたちに・腹を立てる よ  
 「男の人がおまえたちに腹を立てているぞ」

「私を」「あなたを」などの表現

(初級ステップ 17, 18, 19 参照)

このステップでは、「私を (1 人称単数目的格)」「あなたを (2 人称単数目的格)」などの表現 (目的格人称接辞) について説明します。

- (1) 「私を(に)…する」と表現する場合には、他動詞の前に **エン en** = 「私を(に)」をつけます(例文 1)。
- (2) 聞き手を含めずに「私たちを(に)…する」と表現する場合には、他動詞の前に **ウン un** = 「私たちを(に)」をつけます(例文 2)。
- (3) 聞き手を含めて「私たちを(に)…する」と表現する場合には、他動詞の前に **イ i** = 「私たちを(に)」をつけます(例文 3)。
- (4) 「あなたを(に)…する」と表現する場合には、他動詞の前に **エ e** = 「あなたを(に)」をつけます(例文 4)。
- (5) 「あなたたちを(に)…する」と表現する場合には、他動詞の前に **エチ eci** = 「あなたたちを(に)」をつけます(例文 5)。

ステップ16 「私があなを」「あなたが私を」 人称の組み合わせ

(例文)

1. アネモソソ                      ア イケカ エモイモイケ カ ソモ キ。  
 an=e=mososo                      a ikeka, e=moymoyke ka somo ki.  
 私が・おまえを・目覚めさせる た のに おまえが・動く も (否定) する  
 「私がおまえを起こしたのに、おまえは動きもしなかった」

2. エチイララ                      ヤクン  
 eci=irara                              yakun  
 おまえたちが・いたずらする たら  
ケラアン ペ ソモ アネチエレ                      ナ  
 keraan pe somo an=eci=ere                      na.  
 おいしい もの (否定) 私がおまえたちに・食べさせる よ  
 「おまえたちがいたずらしたら美味しいものをあげないよ」

3. エチクサアン                      ナ。\*  
 eci=kusa=an                              na.  
 おまえたちを・舟で渡す・私が よ  
 「私がおまえたちを舟で渡すからな」

4. トオン ペ エエンコレ                      クス  
 toon pe e=en=kore                              kus  
 あの もの おまえが・私に・与える と  
エイエ ワ アン ペ エンタ アナ？\*  
 e=ye wa an pe enta an ya?  
 おまえが・言う て いる もの か ある か  
 「あれは、あなたが私にくれると言っていたものですか？」

「私があなを」「あなたが私を」などの表現

「私があなを…する」「あなたが私を…する」などは、主格と目的格の人称接辞を組み合わせて表現します(主格目的格人称変化と呼ばれます)。  
 主格と目的格の組み合わせは、方言による違いが大きく、詳細が不明な地域もあります。

つぎの表は静内方言の人称の組み合わせです。  
 縦の列は主格の人称、横の列は目的格の人称を示しています。  
 主格人称と目的格人称の単純な組み合わせからは予測できない不規則な形が用いられる場合がありますので、注意が必要です。  
 表には「私たちがあなたたちに」の枠にアネチ an=eci= を載せましたが、静内方言では、エチ・他動詞・アン (eci=他動詞 =an) の言い方もあります。

静内の主格目的格変化表 コレ kore 「～が～に～を与える」

目～に	私に	私たちに	私たちに	君に	君たちに	彼に
主～が						
私が				アネコレ。 an=e=kore.	アネチコレ。 an=eci=kore.	クコレ。 ku=kore.
私たちが				アネコレ。 an=e=kore.	アネチコレ。 an=eci=kore.	チコレ。 ci=kore.
私たちが						アコレ。 a=kore.
君が	エインコレ。 e=en=kore.	エウンコレ。 e=un=kore.				エコレ。 e=kore.
君たちが	エチエンコレ。 eci=en=kore.	エチウンコレ。 eci=un=kore.				エチコレ。 eci=kore.
彼が	エンコレ。 en=kore.	ウンコレ。 un=kore.	イコレ。 i=kore.	エコレ。 e=kore.	エチコレ。 eci=kore.	コレ。 kore.

単語を覚えよう2 ～様子を表す言葉2～

1.	パセ	pase	「～が重い」
2.	コシネ	kosne	「～が軽い」
3.	リ	ri	「～が高い」
4.	ラム	ram	「～が低い」
5.	イロンネ	ironne	「～が厚い」
6.	カパール	kapar	「～が薄い」
7.	セセク	sesek	「～が熱い」
8.	ヤム、ナム	yam, nam	「～が冷たい」
9.	ポプケ	popke	「～が暖かい」
10.	メアン	mean	「寒い」

さまざまなイポロセ2

塘路・釧路地方

◇塘路 山で大木があったときの祈り

シリコロカムイ ウエンメノコ チネヤツカイキ  
sirkorkamuy wen menoko ci=ne yakkayki  
立木の神よ、不束な女ですけれど

タンパク アニ エチノミアンナ。  
tanpaku ani eci=nomi=an na.  
タバコによって貴方を祭りますよ。

イカシッカマワエンコレ  
ikasikkama wa en=kore.  
見守ってください。

(語り手：伊藤つるさん・吉田はるさん)

☆この唱えごとを掲載するにあたり更科源蔵『コタン探訪帳』No.10を参照しました。

◇釧路千代の浦 アイヌ語のよる手紙

カンピ アニ クソンコオマンテ ナ。 エコタン※ タ アイヌ オプッタノ  
kampi ani ku=sonkoomante na. e=kotan ta aynu oputtano  
紙によって言葉を送りますよ。 あなたの村では人々みな

ウイワンケレ ワ アンナ。 チコタン※ アナクネ アイヌ オプッタノ  
uywankere wa an a? ci=kotan anakne aynu oputtano  
互いに達者でいますか。 私の村では、人々みな

ウイワンケレ ワ オカイ クス エラムアン ワ イコレ。 エマチ ウサ  
uywankere wa okay kusu eramuan wa i=kore. e=maci usa  
互いに達者で暮らしていますから そう思って下さい。 あなたの奥さんも

エポ ウサ イワンケ ワ アンナ。  
e=po usa iwanke wa an a?  
あなたのお子さんもお達者ですか。

(書き手：山本順吉さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

※コタヌ kotanu という場合もあります。沙流方言、十勝方言などでは、このような場合常にコタヌになります。

## ステップ17 尊敬の表現と不定人称

(例文)

- ネブ アヌ ルスイ?  
 nep a=nu rusuy?  
 何 あなたさまが・聞く たい  
 「何をお聞きになりたいのですか?」
- エノン パイエアン ルウェ タ アン? \*\*  
 enon paye=an ruwe ta an?  
 どこへ 行く・あなたさまが の か ある  
 「どこへいらっしゃったのですか?」
- カッケマツ イワンケ ワ ピリカ。\*  
 katkemat iwanke wa pirka.  
 婦人 元気だ て 良い  
 「ご婦人がお元気でよかった」
- フ カム フ チェブ アナク アイスパ ワ  
 hu kam hu cep anak an=supa wa  
 生である 肉 生である 魚 は 人が・煮る て  
アエ プ ネ ナ。  
 a=e p ne na.  
 人が・食べる もの だ よ  
 「生の肉と生の魚は煮て食べるものだよ」  
 \*アン an= はスパの前でアイと発音されます。
- タント タアン ペ クカラ オケレ ソモ キ アカナク  
 tanto taan pe ku=kar okere somo ki akanak  
 今日 この もの 私が・作る 終える (否定) する ならば  
アエンコイルシカ。  
 a=en=koiruska.  
 人が・私に・叱る  
 「今日これを作り終えなかったら私は叱られる」

## 尊敬の表現

アイヌ語では、人称接辞やある種の名詞を用いて尊敬の表現が組み立てられます。このステップでは、主に人称接辞による尊敬の表現について説明します。

- (1) 聞き手に対する尊敬を表す場合には、**ア a=(アン an=)**、**アン=an** という人称接辞が用いられます(例文 1,2)。
- (2) 単数と複数の区別のある動詞の場合には、複数形の動詞が用いられます(例文 2)。
- (3) 十勝方言のように2人称の複数を表わす**エチ eci**＝「あなたたちが、あなたたちを」が聞き手に対する丁寧な表現を表わす方言もありますが、このタイプの言い方は、静内方言では確認できていません。
- (4) 相手に対し、**ニシパ nispa** や **カッケマツ katkemat** というふうにより人称で示すと尊敬の表現になります。(例文 3)

## 不定人称

包括的1人称複数の**ア a=(アン an=)**、**アン=an**は、「一般に人が、誰かが」、**イ i=**は、「一般に人を、誰かを」のような不特定の意味を表すことがあります(例文 4, 5)。これを不定人称と呼びます。

ステップ 18 「私」「あなた」人称代名詞

(例文)

- クアニ アナク クイオシケ。  
kuani anak ku=ioske.  
私 は 私が・編み物をする  
「私は編み物をする」
- エアニ ポカ エシクヌ ヤクン\*  
eani poka e=siknu yakun...  
おまえ だけでも おまえが・生きる たら  
「せめておまえだけでも生きてら…」
- チオカ カ フチ ニセウ ウンコレ。  
cioka ka huci nisew un=kore.  
私達 も 祖母 どんぐり 私に・与える  
「私たちにも祖母がどんぐりをくれた」
- アノカ カ イミエウエンアン。\*  
anoka ka imiewen=an.  
私たち も 着るものが良くない・私たちが  
「私たちもよい着物を着ていない」

人称代名詞

人称代名詞は日本語の「私」や「あなた」にあたるものです。

ただし、アイヌ語は人称接辞を用いて人称の関係を表現しますので、人称代名詞は強調など限られた場合にだけ用います。

人称代名詞を用いると、主語や目的語を強調する表現となります(例文参照)。以下に静内方言の人称代名詞のリストをあげます。

	単数	複数
1人称	クアニ kuani	チオカ cioka (除外的), アノカ anoka (包括的)
2人称	エアニ eani	エチオカ ecioka, (エチウタリ eciutari)
3人称	(アニヒ anihi)	不明

アニヒ anihi は、3人称を示すというには限定的な使い方をするので上の表では( )をつけています。

次の文を作例して、織田さんに聞いてもらったところ

アニヒ パテク シト エ  
anihi patek sito e  
(?) だけ 団子 を食べる

「アニヒ anihi は自分の夫で、自分ばかり餅を食べるという意味だ」との返答を得ています。

エチウタリ eciutari 「あなたたち」も使うことがありますが、その場合は、動詞の人称接辞が省略されている例が多いようです。

このほか、物語では、「私」「私達」を示すアノカ anoka と、「私」だけを示すアナニ anani という語もあります。また、用例は少ないものの、「私たち」だけを示すアヌタリ anutari という語も物語では使われることがあります。

ステップ 19 動詞の単数・複数 1 形が全く異なる動詞

(例文)

1. エムコタ ホプニ ワ アシ!  
emkota hopuni wa as  
早く 起きあがる て 立つ  
「早く起きて立ちなさい」
2. エアフン ルスイ クス エエク ルウェ ネ ナ アフン “  
e=ahun rusuy kus e=ek ruwe ne na. ahun!  
おまえが・入る たい ので おまえが・来る の だ よ 入る  
「おまえは家に上がりたくて来たんだから入れ」
3. チセ オツ タ アルキ。  
cise or ta arki.  
家 の所 に 来る  
「(彼らが) 家に来た。」
4. タン トウミ オルン エポホ オマン。  
tan tumi or un e=poho oman.  
この 戦争 の所 へ おまえの・息子 行く  
「この戦争へおまえの息子は行った」
5. エノン エチパイエ クス エチイエ ハウエ タ アン? \*  
enon eci=paye kus eci=ye hawe ta an?  
どこへ おまえたちが・行く と おまえたちが・言う の か ある  
「あなたたちはどこへ行くと言ったのですか」

単数と複数で形が全く異なる動詞

(初級ステップ 25 参照)

アイヌ語の動詞の一部には、単数と複数の区別をもつものがあります。

単数・複数の区別をもつ動詞のなかには、単数形と複数形で全く形の異なるものがあります。このようなタイプの動詞は、数は少ないのですが基本的な動詞が多く、個々に覚える必要があります。

以下に自動詞の例をあげます。自動詞の複数形は主語が複数であることを表します (例文 3, 5)。

モナア monaa (単数) / ロク rok (複数) 「～が座る」

アン an (単数) / オカ oka (複数) 「～がある、いる」

アシ as (単数) / ロシキ roski (複数) 「～が立つ」

エク ek (単数) / アルキ arki (複数) 「～が来る」

オマン oman (単数) / パイエ paye (複数) 「～が行く」

オマナン omanan (単数) / パイエカ payeka (複数) 「～が歩き回る」

以下に他動詞の例をあげます。なお、基本的に他動詞の複数形は目的語が複数であることを表します。

アシ asi (単数) / ロシキ roski (複数) 「～が～を立てる」

ただし、静内方言の場合は、単数形・複数形の使い分けが明確でない場合が多くあります。

さらに静内方言の物語では、主語が単数であっても、人称接辞アン=an が自動詞の後ろにつくときは複数形の方を使いますので、注意が必要です。

ステップ 20 動詞の単数・複数 2    ン -n 単数形、プ -p 複数形

(例文)

1. ヘタク アフン マ シニ。  
 hetak ahun wa sini  
 さあ 入る て 休む  
 「さあ入って休みなさい」
  
2. ホシキノ ペツ オルン サン。  
 hoskino pet or un san  
 先に 川 の所 へ 下がる  
 「先に川へ下りた」  
 \*オロ ウン or un は、ひとまとまりに発音されてオルンとなります。
  
3. マッカチ ウタラ ワッカタ クス サブ  
 matkaci utar wakkata kus sap.  
 女の子 たち 水汲みする ために 下がる  
 「女の子たちが水汲みに下りた」
  
4. チセ オツ タ アフプ ペ カ オカ。  
 cise or ta ahup pe ka oka.  
 家 の中 に 入る もの も いる  
 「家に入ったものもいた」

ン -n で単数形、プ -p で複数形がつくられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろにン -n をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにプ -p をつけて複数形がつくられます。このようなタイプの動詞は、基本的に移動の意味を表わす自動詞に限られています。以下に例をあげます。

アフン ahu-n (単数) / アフプ ahu-p (複数) 「～が入る」

ラン ra-n (単数) / ラプ ra-p (複数) 「～が降りる」

サン sa-n (単数) / サブ sa-p (複数) 「～が(川下へ)下る」

リキン riki-n (単数) / リキプ riki-p (複数) 「～が上る」

例文 2,3 の日本語「下りた」からは「下りた」のが1人なのか複数の人なのかわかりません。しかし、アイヌ語は、単数形サン san と複数形サブ sap が使われているので、例文 2 は一人が「下りた」こと、例文 3 は複数の人が「下りた」ことがわかります。

例文 1,4 の日本語「入っ(て)」「入った」からは、「入った」のが一人なのか複数の人なのかわかりません。しかし、アイヌ語は、単数形アフン ahun と複数形アフプ ahup が使われているので、例文 1 は一人が、例文 4 は複数の人が「入った」ことがわかります。

なお、静内方言の物語では、主語が単数であっても、人称接辞アン =an が自動詞の後ろにつくときは複数形の方を使いますので、注意が必要です。

ステップ21 動詞の単数・複数3 母音で単数形、パ -pa で複数形

(例文)

1. エカシ ホシピ。  
ekasi hosipi.  
おじいさん 帰る  
「おじいさんが帰った」
2. タネポ ホシッパ ワ アルキ ルウエ ネ ナ。  
tanepo hosippa wa arki ruwe ne na.  
はじめて 帰る て 来る の だよ  
「(道に迷って) やっと帰って来たのですよ」
3. アイヌ オピッタ ホプンパ。  
aynu opitta hopunpa.  
人間 みな 立ち上がる  
「人は皆立ちあがった」
4. ヘタク ソイエンパ ワ シノツ ヤン!  
hetak soyenpa wa sinot yan!  
さあ 外に出る て 遊ぶ なさい  
「さあ外に出て遊びなさい」

母音で単数形、パ -pa で複数形がつくられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろに母音をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにパ -pa をつけて複数形がつけられます。

このタイプの動詞は比較的多くみられます。自動詞の例をあげます。

ホプニ hopun-i (単数) / ホプンパ hopun-pa (複数)「～が起きる」(例文4)

ホシピ hosip-i (単数) / ホシッパ hosip-pa (複数)「～が帰る」(例文1,2)

ホユプ hoyup-u (単数) / ホユッパ hoyup-pa (複数)「～が走る」

他動詞の例を次にあげます。なお、他動詞の複数形は、目的語の数を表すのが一般的ですが、静内方言ではその区別がはっきりしません。

アニ ani (単数) / アンパ anpa (複数)「～を持つ」

ペレ per-e (単数) / ペルパ per-pa (複数)「～が～を割る」

なお、静内方言の物語では、主語が単数であっても、人称接辞アン =an が自動詞の後ろにつくときは複数形の方を使いますので、注意が必要です。

ステップ 22 自動詞・他動詞・複他動詞

(例文)

1. ハポ ウタラ ミチ ウタラ モンライケ クス ソイエンパ アクス  
 hapo utar mici utar monrayke kus soyenpa akus  
 母親 たち 父親 たち 働く ため 外に出る と

ホシッパ モイレ ワ クミシム。  
 hosippa moyre wa ku=mismu.  
 帰る 遅れる て 私が・寂しい

「母たちと父たちが仕事に出かけると帰りが遅くて私は寂しくなった」

2. リヤリヤ マメ ニコロ マメ フチ エヤム ワ オカ  
 riyariya mame nikor mame huci eyam wa oka.  
 年越しする 豆 木を持つ 豆 祖母 大事に保管する て いる

「何年もたった古い豆、手あり豆を祖母が大事にしていた」

3. タント アナク フチ クカスイ エトランネ。  
 tanto anak huci ku=kasuy etoranne  
 今日 は 祖母 私が・手伝う したくない

「今日はおばあちゃんの手伝いをしたくない」

4. トウムコル ペ トウムサク ペ チシテ。  
 tumkor pe tumsak pe ciste.  
 力がある もの 力がない もの 泣かす

「強い者が弱い者を泣かした」

5. フチ ス オシケ スム オ。  
 huci su oske sum o.  
 祖母 鍋 の中 油 入れる

「祖母が鍋に油を入れた」

自動詞 (1 項動詞)

これまでのステップでも、自動詞や他動詞という用語が出てきました。これらの動詞の違いは、いくつの名詞と結びつくかという点にあります。動詞が名詞と結びつくことを、「動詞が名詞を取る」と表現することもあります。自動詞は1つの名詞と結びつき、この名詞が主語（動作の主体）になります（例文1）。

**ハポ ウタラ** **モンライケ**。hapo utar monrayke. 「**母たち**が仕事をする」

この例のように、自動詞の前には空の箱が1つあって「が仕事をする」のような格好になっているとイメージしてください。この箱には主語にあたる名詞が入ります。このように、自動詞は1つの名詞と結びつくことから、「1項動詞」と呼ばれることもあります。

他動詞 (2 項動詞)

他動詞は主語の他にもう1つの名詞と結びつき、これが目的語（動作の対象となるもの）になります（例文2,3,4）。

**マメ** **フチ** **エヤム**。mame huci eyam. 「**豆**を**祖母**が大事にする」

この例のように、他動詞の前には、主語の箱に加えてもうひとつ目的語の箱があるとイメージしてください。他動詞は2つの名詞と結びつくことから、「2項動詞」と呼ばれることもあります。アイヌ語では、自動詞と他動詞の区別が厳密におこなわれます。

日本語では、主語に「～は、～が」を、目的語は「～を、～に」といった格助詞が用いられますが、アイヌ語では用いられません。名詞は主語・目的語の順に並べられるのが一般的ですが、目的語・主語の順に並べられることもあります。

複他動詞 (3 項動詞)

他動詞のなかには、目的語にあたる名詞を2つ取る動詞があります。これを複他動詞 (3項動詞) と呼びます (例文5)。

**ス オシケ** **スム** **オ**。su oske sum o. 「(祖母が) **鍋の中**に**油**を入れる」

## ステップ 23 「たくさん」「少し」副詞

(例文)

- チセ シツケウ ピリカノ ヌカル ヤン! チヤシヌカ ヤン!  
 cise sikkew pirkano nukar yan! casnuka yan!  
 家 隅 良く 見る なさい 片付ける なさい  
 「家の隅をよく見なさい、片づけなさい」
- ソモ クオイラ ノ クアン ナ。  
 somo ku=oyra no ku=an na.  
 (否定) 私が・忘れる で 私が・いる よ  
 「私は忘れないでいるよ」
- イテツケ ウコイキ ノ シノツ ヤン!  
 itekke ukoyki no sinot yan!  
 (禁止) けんかする で 遊ぶ なさい  
 「けんかしないで遊びなさい」
- オッカイ コラチ オトウイマチキツトウリ  
 okkay koraci otuymacikitturi.  
 男 同じように 大股で歩く

メノコ ネノ チンプニ カ ソモ キ ノ  
 menoko neno cinpuni ka somo ki no  
 女 らしく 足を上げる も (否定) する で

オッカヨ コラチ アプカシ シリ! イラムキッタ!  
 okkayo koraci apkas siri! iramkitta!  
 男 同じように 歩く 様子 あきれなあ  
 「男のように大股で歩き、女らしく足を上げることもしないで男と同じように歩いているなあ。あきれたなあ」

## 副詞のはたらき

このステップでは主として副詞を使った表現を取り上げます。副詞とは日本語の「たくさんある」「とてもはやい」などのように、動詞の前に置かれて動作・状態のあり方を説明する言葉です。

- (1) 副詞のなかには、動詞にノ -no という形をつけて規則的につくられるものがあります

ポン pon 「～が小さい」 → ポンノ ponno 「少し」  
 ピリカ pirka 「～が良い」 → ピリカノ 「良く」(例文 1)  
 トウイマ tuyma 「～が遠い」 → トウイマノ tuymano 「遠く」

- (2) 「…しない」という否定の表現には ソモ somo(ホモ homo、ヘンネ henne など) という副詞が、「…するな」という禁止の表現には イテツケ itekke という副詞が用いられます(例文 2, 3)(ステップ 11 を参照)。

- (3) 副詞のなかには、名詞の後に置かれて「～に、～で」のような格助詞にあたる役割をもつものがあります(例文 4)。このような副詞は後置副詞と呼ばれます。後置副詞のなかには人称接辞をとるものもあります。

ステップ24 位置関係の表現1 短形と長形

(例文)

- コタン ケシ ワ コタン パ ワ ウエカルパ。\*

kotan kes wa kotan pa wa uekarpa.

村 下手 から 村 上手 から 集まる

「村の下手や上手から人が集まった」
- コタン オシマク タ ヌプスツ タ ポン チセ アカラ。\*

kotan osmak ta nupsut ta pon cise a=kar

村 後ろ に すそ野 に 小さい 家 私が (物語)・建てる

「村の背後のすそ野に小さい家を建てました」【ウウエペケル】
- ポン プヤラ チヨルポク タ ワッカクオンタロ アマ。

pon puyar corpok ta wakkakuontaro ama.

小さい 窓 下 に 水樽 置く

「小窓の下に水樽を置きました」
- ポロ ペツ オルン チャル コロ ポロ ナイ

poro pet or un car kor poro nay

大きい 川 の所 へ ロ 持つ 大きい 沢

アン ルウェ ネ ナ。 オロ タ やっと

an ruwe ne na. oro ta YATTO

ある の だよ そこ に すぐ

トオ ナイ トウラシ エチパイェ ワ… \*

too nay turasi eci=paye wa…

ずっと 沢 沿って おまえたちが・行く て

「大川に沢口のある大きな沢があるのだよ。  
そこにすぐ、ずっと沢にそって上流へおまえたちが行って…」  
【ウウエペケル】

\*オロ ウン or un は、ひとまとまりに発音されてオルンとなります。
- ランコ カムイ アン ルウェ シエトクン アンヌカラ。\*

ranko kamuy an ruwe sietok un an=nukar.

カツラ 神 いる の 自分の進む前 へ 私たちが (物語)・見る

「桂の木の神様がいるのが自分の行く先に見えました」【ウウエペケル】

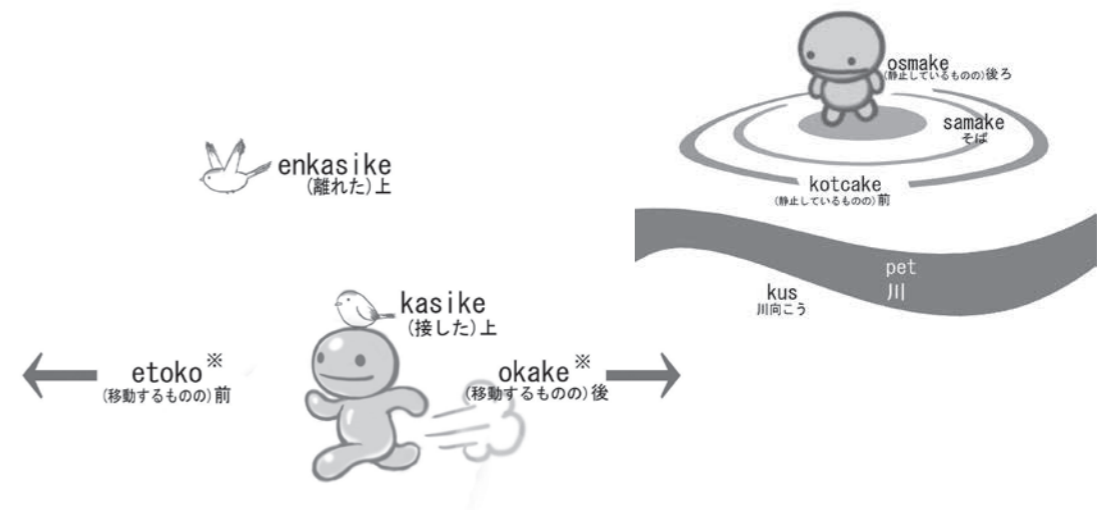
\*シエトク ウン sietok un は、ひとまとまりに発音されてシエトクンとなります。

位置関係を表す名詞

「前」「後」のような位置関係を表す名詞を位置名詞といいます。位置名詞には短形と長形との区別と呼ばれる形があり、次のような語があります。

- エトク etok (短形) / エトコ etoko (長形) 「(動いているものの) 前」
- コッチャ kotca (短形) / コッチャケ kotcake (長形) 「(静止しているものの) 前」
- オカ oka (短形) / オカケ okake (長形) 「(動いているものの) 後」
- オシマク osmak (短形) / オシマケ osmake (長形) 「(静止しているものの) 後」
- オロ or (短形) / オロ oro (長形) 「ところ」

一般に、短形は基準となる名詞との関係が密接な場合に使用されます。また、長形は基準となる名詞が省略されている場合などに使用されます。ただし、短形と長形の区別についてはまだ十分に明らかではない面もあります。



※etoko, okakeよりも、人称変化をしないsietok un「自分の(進む)前へ」  
sioka un「自分の(進んできた)後ろへ」という表現の方がよく使われます。

単語を覚えよう 3 ～動作を表す言葉 1～

1.	シノッ	sinot	「～が遊ぶ」
2.	マ	ma	「～が泳ぐ」
3.	アプカス	apkas	「～が歩く」
4.	ホユプ	hoyupu	「～が走る」
5.	モコロ	mokor	「～が眠る」
6.	ホツケ	hotke	「～が横になる」
7.	モイナク	moynak	「～が目覚める」
8.	アス	as	「～が閉まる」
9.	アフン	ahun	「～が入る」
10.	ソイエネ	soyene	「～が外に出る」

さまざまなイポロセ 3

静内・十勝地方

◇新年の祈り

アシリパノミ アンキ シリ ネ ナ。  
asirpanomi an=ki siri ne na.  
新年の祈りをいたしますよ

ウロクテ カムイ ウタリ  
urokte kamuy utari  
いらっしゃいます神々よ、

アムキリ ワ ウンコレ キ ヤン！  
amkir wa un=kore ki yan!  
ご承知ください。

クコロ ウタリ ピリカ モンライケ キ クニネ、  
ku=kor utari pirka monrayke ki kunine,  
私の親族がつつがなく働けますように、

セレマク ウシ ワ ウンコレ キ ヤン！  
sermak us wa un=kore ki yan!  
お見守りください。

(語り手：葛野辰次郎さん)

☆この言葉を掲載するにあたり『平成 11 年度アイヌ語ラジオ講座テキスト』vol.4 を参照しました。

◇芽室太 船を下ろす時の歌

アリ アン ペ シタ メナスン テレケ  
ari an pe sta menas un terke  
これこそまさに 東の踊り

メナスン リムセ オカイ ペ ネ ネ  
menas un rimse okay pe ne ne.  
東の舞 まことだぞ

アンホーホイ ハホイ！  
an ho hoy ha hoy!

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第 8 号下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009 年）を参照しました。

ステップ 25 位置関係の表現 2 位置名詞の人称

(例文)

1. エントモ ウン チュプキヤイ アン マ  
 en=tomo un cupkiyay an wa  
 私の・中ほど へ 日ざし ある て

クシクチュプチュプ カネ クインカラ  
 ku=sikcupucupu kane ku=inkar.  
 私が・目を何度もつぶり ながら 私が・見る

「私に日が差して私は目を何度もつぶりながら眺めました」

\*ワ wa はアン an のあとに続くとマと発音されます。

2. オッカヨ ウタラ イサマケ クス コオンノ… \*  
 okkayo utar i=samake kus koonno…  
 男 たち 私たち・そば 通る と…

「男たちが私たちのそばを通ると…」

3. エコツチャケ タ マキリ アン ナ。 \*\*  
 e=kotcake ta makiri an na.  
 あなたの・前 に 小刀 ある よ

「あなたの前に小刀があるよ」

4. サポ エチオツ タ エク? \*  
 sapo eci=or ta ek?  
 お姉さん おまえたちの・所 に 来る

「姉さんはあなたたちのところに来ましたか」

5. サマケ タ パイエアン。 \*  
 samake ta paye=an  
 そば に 行く・私たちが

「彼のそばに私たちは行った」

位置名詞の人称

このステップでは、人称接辞と位置名詞の組み合わせについて説明します。位置名詞の基準点を表す場合には、目的格人称接辞が用いられます。

- (1) 「私の前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**エン en**＝「私を(に)」をつけます。  
 例文 1 では、位置名詞**トモ tomo**「中ほど」の前に**エン en**＝「私を(に)」がついて「私の中ほど」つまり「(日が当たっている面である)私の体」を表しています。
- (2) 聞き手を含めずに「私たちの前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**ウン un**＝「私たちを(に)」をつけます。
- (3) 聞き手を含めて「私たちの前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**イ i**＝「私たちを(に)」をつけます。  
 例文 2 では、位置名詞**サマケ samake**「そば」の前に**イ i**＝「私たちを(に)」がついて「私たちのそば」を表しています。
- (4) 「あなたの前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**エ e**＝「あなたを(に)」をつけます。  
 例文 3 では、位置名詞**コツチャケ kotcake**「前」の前に**エ e**＝「あなたを(に)」がついて「あなたの前」を表しています。
- (5) 「あなたたちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エチ eci**＝「あなたたちを(に)」をつけます。  
 例文 4 では、位置名詞**オロ or**「前」の前に**エ e**＝「あなたを(に)」がついて「あなたの前」を表しています。
- (6) 「彼の前」「彼らの前」などと表現する場合には、位置名詞をそのまま用います。  
 例文 5 では位置名詞**サマケ samake**「そば」がそのまま用いられています。

## ステップ 26 場所の表現

(例文)

1. タアン ペ モセム オルン ルラ ヤン!  
 taan pe mosem or un rura yan!  
 この もの 入り口の納屋 の所 へ 運ぶ なさい

「これを入口の納屋へ運びなさい」

\*オロ ウン or un は、ひとまとまりに発音されてオルンとなります。

2. タン トウミ オルン エポホ オマン。  
 tan tumi or un e=poho oman.  
 この 戦争 の所 へ おまえの・息子 行く

「この戦争におまえの息子が行った」

\*オロ ウン or un は、ひとまとまりに発音されてオルンとなります。

3. オロワ スム カ ス オシケ オ ワ ウコポイエ。  
 orowa sum ka su oske o wa ukopoye.  
 それから 油 も 鍋 の中 入れる て かき混ぜる

「それから油も鍋に入れてかき混ぜます」

4. コタン オルン ペ スイ ウエカルパ\*  
 kotan or un pe suy uekarpa.  
 村 の所 に住む もの また 集まる

「村に住む者が、また集まった」

5. イテッケ アイヌ コツチャ クス! アイヌ オシマク ペカ アフカシ! \*\*  
 itekke aynu kotca kus! aynu osmak peka apkas!  
 (禁止) 人間 前 通る 人間 後ろ を 歩く

「人の前を通るな。人の後ろを歩きなさい」

## 場所の表現

アイヌ語の格助詞は、位置名詞の後に置きます。

ですから、「入口の納屋」や「戦争」のような普通名詞の後ろに、格助詞を直接置くことはできません。そこで、普通名詞の後ろに格助詞を置く場合には、位置名詞を用いて、**普通名詞+位置名詞+格助詞**のように表現します(例文 1,2)。

## 場所を目的語にする動詞

動詞の中には「前」、「後」のような場所を表す名詞を目的語としてとる動詞があります。例としては、**ウン un** 「～にある、いる」(例文 4)、**クス kus** 「～を通る」(例文 5) などの動詞があります。

ステップ 27 所有の表現 1 名詞の所属形と概念形

(例文)

1. クアツカシ アイネ クチキリ ポロ ポッピセ オマ ワ アルカ。  
 ku=apkas ayne ku=cikiri poro poppise oma wa arka.  
 私が・歩く ついに 私の・足 大きい 水ぶくれ 入る て 痛い  
 「私は歩き続けて足に大きな水ぶくれができて痛い」
2. クチキリ パセ ワ アツカシ カ クエアイカプ  
 ku=cikiri pase wa apkas ka ku=eaykap  
 私の・足 重い て 歩く も 私が・できない  
 「私は足が重くて歩けない」
3. エトウママ エモイモイエ  
 e=tumama e=moymoye,  
 おまえの・体 おまえが・動かす  
エチキリ エテケヘ カ エモイモイエ\*  
 e=cikiri e=tekehe ka e=moymoye...  
 おまえの・足 おまえの・手 も おまえが・動かす  
 「おまえが体を動かし、足も手も動かし…」
4. エチセ ウン ヘタク ホシピ ワ オマン!  
 e=cisehe un hetak hosipi wa oman!  
 おまえの・家 へ さあ 帰る て 行く  
 「おまえの家へ、さあ帰りなさい」
5. プクサ ハムフ。  
 pukusa hamuhu.  
 行者ニンニク の葉  
 「その行者ニンニクの葉」

名詞の所属形と概念形

アイヌ語の名詞には概念形と所属形の二種類があります。概念形は一般的・抽象的な意味で用いられ、所属形は「AのB」という所有の表現に用いられます。

(1) 所有の表現は「人称接辞＋名詞所属形」(例文 1～4)、または「名詞＋名詞所属形」(例文 5)のように言葉を並べます。

(2) 母音で終わる名詞語幹の場合、所属形は次のようにつくられます。

概念形  
 概念形＋ hV (V: 母音)

(3) 子音で終わる名詞語幹の場合、所属形は次のようにつくられます。

概念形＋所属形接尾辞  
 概念形＋所属形接尾辞＋ hV

(4) (3)の所属形接尾辞は、ア a、イ i、ウ u、エ e、オ o ですが、なかでもイ i が一番多いようです。また、ウ w、イ y で終わる語幹の場合、所属形接尾辞はエ e となります(-hV の V は、最後の母音と同じ母音が現れます)。

## ステップ 28 所有の表現 2

(例文)

1. エチキリ アリ クセトウル オテルケ。\*  
e=cikiri ari ku=seturu oterke.

あなたの・足 で 私の・背中 踏む

「足で背中を踏んでくれ」

2. ネコン エチヤイヌ ワ タ エチニサピヒ  
nekon eci=yaynu wa ta eci=nisapihi

どう おまえたちが・思う て か おまえたちの・すね

エチキシマ ワ エチモナア ワ  
eci=kisma wa eci=monaa wa

おまえたちが・抱える て おまえたちが・座る て

エチオカ ルウエ アン？\*  
eci=oka ruwe an?

おまえたちが・いる の ある

「(一体) 何を考えておまえたちはひざをかかえて座っているんだい」

3. クアニ カ クコル ペ ネ ワ。 ピリカ ワ。  
kuani ka ku=kor pe ne wa. pirka wa.

私 も 私が・持つ もの だ て 良い よ

「私も持っているものだよ。いらぬよ。」

4. アコロ チプ カムイ。  
a=kor cip kamuy.

私たちが・持つ 舟 神

「私たちの舟の神様」

## 所有の表現

「AのB」という所有の表現には、次の二通りのパターンがあります。

- (1) 「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」を用いた所有の表現は、身体部位などのように、相手に譲り渡すことが不可能な場合に用いられます(例文 1,2)。
- (2) 同じ所有の表現であっても、舟や飼育動物など、相手に譲渡することが可能な場合には、**コロ kor** 「～が～を持つ」という動詞を用いて、「人称接辞＋コロ kor＋名詞」または「名詞＋コロ kor＋名詞(概念形)」と表現します(例文 3,4)。

## ステップ 29 親族関係の表現

(例文)

- クポホ ホシピ。  
ku=poho hosipi.  
私の・息子 帰る  
「私の息子が帰った」
- ユピヒ ウタル カ ホブンパ。\*  
yupihi utar ka hopunpa.  
兄 たち も 立ちあがる  
「彼の兄たちも立ちあがった。」
- トオン ペ ハポホ コポンペネ。  
toon pe hapoho koponpene.  
あの もの 母親 甘える  
「あの子は母親に甘えている」
- エコロ ハポ オルン エイエ ナンコル。  
e=kor hapo or un e=ye nankor.  
おまえが・持つ お母さん の所 へ おまえが・言う だろう  
「おまえのお母さんに言いなさい。」  
\*オロ ウン or un は、ひとまとまりに発音されてオルンとなります。
- サポ！ タンペ ピタタ ワ インカル！  
sapo! tanpe pitata wa inkar!  
お姉さん これ ほどく て 見る  
「お姉さん！ これをほどいて見て」
- クマタキ！ シニ！  
ku=mataki! sini!  
私の・妹 休む  
「妹よ！休みなさい！」

## 親族関係の表現

親族関係の表現には、「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」が用いられる場合があります（例文1～3）。

一方、「人称接辞＋コロ kor＋名詞」または「名詞＋コロ kor＋名詞」が用いられる場合もあります（例文4）。

親族関係の表現には方言差も大きく、どの言い方をするのか不明な場合もあります。

## 呼びかけの表現

相手に呼びかける場合は、人称接辞が用いられる場合（例文6）と、人称接辞が用いられない場合があります（例文5）。

## ステップ 30 形式名詞

(例文)

- シオ カムイ ユプケ。 タアン ペ フレ ルウエ ネ ナ。\*  
 sio kamuy yupke. taan pe hure ruwe ne na  
 風邪 神 きつい この もの 赤い の だ よ  
 「風邪の神がひどく、この子は（熱で）赤くなったのだよ」
- チブ ヤンケ クス サブアン シリ ネ ナ。  
 cip yanke kus sap=an siri ne na.  
 舟 上げる ために 下がる・私たちが 様子 だ よ  
 「舟を上げるために私たちは山を下りているのですよ」
- アチャポ イエ プ ネ ハウエ ネ。\*  
 acapo ye p ne hawe ne  
 おじさん 言う こと だ 声 だ  
 「おじさんが言ったことなのです」
- クウウェペケンヌ ハウエ ネ。\*  
 ku=uwepekennu hawe ne.  
 私が・尋ねる 声 だ  
 「私は尋ねたのです」
- エアットウコンノアン ネプ カ エシタン フミ ネ コトム  
 eattukonnoan nep ka estan humi ne kotom  
 なんとまあ 何 か 探す 音 だ らしく  
 ウサ オカイ ペ エヤプキリ フミ ケウロトツケ。  
 usa okay pe eyakir humi kewrototke  
 いろいろ ある もの 投げる 音 響く  
 「なんとまあ、何かを探す音らしく、色々なものを投げる音が響いた」

## 形式名詞の用法

例文の中のルウエ ruwe, シリ siri, ハウエ hawe, フミ humi は、いずれも日本語の「の」「こと」などにあたる意味の言葉です。これらの言葉は形式名詞（または名詞化辞）とよばれます。

- (1)ルウエ ruwe は話し手が確信している事柄に用いられます(例文 1)。
- (2)シリ siri は視覚によって認識された事柄に用いられます(例文 2)。
- (3)ハウエ hawe は発言などによって認識された事柄に用いられます(例文 3,4)。
- (4)フミ humi は物音や身体感覚などによって認識された事柄に用いられます(例文 5)。

## 形式名詞と動詞の組み合わせ

形式名詞はネ ne 「～が～である」という動詞と組み合わせられて、日本語の「のだ」「ことだ」にあたる表現をつくります(例文 1~5)。

## ステップ 31 連体修飾表現

(例文)

- ノカン ペ アナク シネ テム パクノ アン。\*

nokan pe anak sine tem pakno an.

幼い、小さい もの は 一つの 尋 (ひろ) ほど ある

「小さいもの (イトウという魚) は一尋ほどある」※尋は長さの単位
- チカプ カ ソモ ネ。

cikap ka somo ne.

鳥 も (否定) だ

チェプ カムイ チライ アリ アイェ チェプ ネ。\*

cep kamuy ciray ari a=ye cep ne.

魚 神 イトウ (魚の名) と 人が・言う 魚 だ

「鳥でなく、魚の神様、イトウという魚です」
- アシリ ポロ チセ ネ ア プ チセ カ イサム。\*

asir poro cise ne a p, cise ka isam.

新しい 大きい 家 だ た が 家 も ない

「新しく大きな家だったのに、その家がない」
- フチ イェ イタク クオイラ カ ソモ キ。\*

huci ye itak ku=oyra ka somo ki

祖母 言う 言葉 私が・忘れる も (否定) する

「祖母が言った言葉は私は忘れない、どこまでも祖母が言った言葉は」
- トオ オピスン レタル ポロ チカプ

too opisun retar poro cikap

遠く 浜の方から 白い 大きい 鳥

ラポラポ カネ エク。\*

raporapo kane ek

羽ばたく ながら 来る

「ずっと遠く浜の方から白い大きな鳥が羽ばたいてきた」

## 連体修飾表現

ある単語や句が名詞を修飾する構造を連体修飾節といいます。

- (1) アイヌ語の連体修飾節は、日本語と同じように、修飾する名詞の前に置かれます (例文 1～5)。
- (2) 修飾を受ける名詞には、本来の文の主語に相当するもの (例文 1, 3, 5) 目的語に相当するもの (例文 2, 4) などがあります。

## ステップ 32 「この」「その」「あの」連体詞

(例文)

- シネ テコロ トウ テコロ  
sine tekor tu tekor  
一つの ひとつかみ ふたつの ひとつかみ  
リテンカ ワ エンコレ ヤン。  
ritenka wa en=kore yan!  
柔らかにする て 私に・与える なさい  
「(ゴザ編み用のガマの葉) 一つかみ二つかみを軟らかくして下さい」
- トオニ ワ ネン カ エク コトム クインカル。\*  
toon hi wa nen ka ek kotom ku=inkar.  
あの ところ から 誰 か 来る ように 私が・見る  
「あそこから誰か来るように見えた。」
- タンパ パ ピリカ ヤ パ ウェン ヤ クエラムアン。  
tanpa pa pirka ya pa wen ya ku=eramuan.  
今年 年 良い か 年 悪い か 私が・分かる  
「今年は年が良いか悪いか私は分かります」
- ネア ルイケ ア ルイケ ア タシロ。\*  
nea ruyke a ruyke a tasiro.  
その 研ぐ た 研ぐ た 山刀  
「その砥ぎに砥いだ山刀」
- イキア フレ マメ クンネ マメ レタル マメ  
ikia hure mame kunne mame retar mame  
その 赤い 豆 黒い 豆 白い 豆  
コタン エピッタ ウコウサライエ。\*  
kotan epitta ukousaraye.  
村 じゅうに 分け合う  
「その赤い豆、黒い豆、白い豆を村じゅうで分け合った」【ウウエペケル】

## 連体詞を用いた表現

連体詞は日本語の「この、その」や「2つの」のように、名詞の前に置かれて位置や数などの情報を付け加える言葉です。連体詞には数を表すもの(「1つの」、「2つの」)や空間を指示するもの(「この」「あの」)、前に出てきた話題を指示するもの(「その」)などがあります。

- 数を表す連体詞には、シネ sine「1つの、1人の」、トウ tu「2つの、2人の」、レ re「3つの、3人の」などがあります(例文1)。詳しくは初級ステップ23を参照してください。
- 空間を指示する連体詞には、タアン taan「この(自分から近い位置にあるもの)」、トオン toon「あの(自分から遠い位置にあるもの)」などがあります(例文2)。なお、時間を指示する場合には、タン tan「この」が用いられます(例文3)。
- 前に出てきた話題を指示する連体詞には、ネ ne「その」、ネア nea「その」(例文4)、ネアン nean「その」(複数形はネオカ neoka)、イキア ikia「その」(例文5、複数形はイキロク ikirok)などがあります。

単語を覚えよう4 ～動作を表す言葉2～

1.	コル、コロ	kor	「～が～を持つ」
2.	ヌカラ、ヌカル	nukar	「～が～を見る」
3.	ヌ	nu	「～が～を聞く」
4.	エ	e	「～が～を食べる」
5.	ク	ku	「～が～を飲む」
6.	ミ	mi	「～が～を着る」
7.	マカ	maka	「～が～を開ける」
8.	セシケ	seske	「～が～を閉める」
9.	アフンケ	ahunke	「～が～を入れる」
10.	サンケ	sanke	「～が～を出す」

さまざまなイポロセ4

◇人称接辞の歌（「ドレミの歌」の節で）

クは私の ku= エはあなたの e= eci（エチ）=あなたたち  
 ci=（チ）はてまえども =as（アシ）は自動詞に a=は一般に  
 =an（アン）は敬称も en=（エン）un=（ウン）e=（エ）eci=（エチ）i=（イ）

☆歌って人称接辞の役割を覚えてしまいましょう。（作成：北原次郎太）

ク	ku=	1人称単数主格	動詞について「私は、私が」 名詞について「私の」
エ	e=	2人称単数主格	動詞について「君は、君が」 名詞について「君たちの」
エチ	eci=	2人称複数主格	動詞について「君たちは、君たちが」 名詞について「君たちの」
チ	ci=	除外的1人称複数主格	他動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」 名詞について「私たちの」
アシ	=as	除外的1人称複数主格	自動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」
ア	a=	不定人称主格	不定人称主格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」 名詞について「(相手を含む) 私たちの」
アン	=an	不定人称主格	自動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」
エン	en=	1人称単数目的格	他動詞について「私に、私を」
ウン	un=	1人称複数目的格	他動詞について「私たちに、私たちを」
エ	e=	2人称単数目的格	他動詞について「君に、君を」
エチ	eci=	2人称複数目的格	他動詞について「君たちに、君たちを」
イ	i=	不定人称目的格	不定人称目的格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちに、私たちを」 「人に、人を」「あなたに、あなたを」

ステップ 33 「～へ」「～から」格助詞

(例文)

1. プクサ ハムフ アナク チセ オツ タ フチ サツケ。  
 pukusa hamuhu anak cise or ta huci satke.  
 行者ニンニク 葉 は 家 の所 に 祖母 干す  
 「その行者ニンニクの葉は、家のなかで祖母が干した」
2. キム ペカ オカ ハツ カ タネ メアン コンノ ケラアン、  
 kim peka oka hat ka tane mean konno keraan,  
 山 に ある ヤマブドウ も 今 寒い と 美味しい  
 トペン。 メカル コオンノ ケラアン マ アエ。\*  
 topen. mekar koonno keraan wa a=e  
 甘い 寒さに当たる と 美味しい て 私が・食べる  
 「山にあるブドウももう寒くなると美味しくなり  
 甘くなる。寒さに当たると美味しくなって食べます」  
 \*ワ wa はアン an のあとに続くとマと発音されます。
3. シトネアマム アナク シト ネ アカル ワ アエ。  
 sitoneamam anak sito ne a=kar wa a=e.  
 粘りのでる穀物 は 団子 として 人が・作る て 人が・食べる  
 「粘りのでる穀物は団子に作って食べます。」

格助詞を用いた表現

日本語の「～で」「～に」「～を」のように、名詞の後に置かれてその名詞の文法的な役割を示す言葉を助詞（後置詞）といいます。主な格助詞を以下にあげます（ステップ 23 で説明した後置副詞にあたる形も含めてあります）。

タ	ta	～に、～で（場所・到着点）	例文 1
ウン	un	～へ（方向）	
ペカ	peka	～で、～を（広い場所）	例文 2
ワ	wa	～から（起点）	
ネ	ne	～として、～に	例文 3

※静内方言では、エン en 「～へ」も使います。

なお、格助詞に相当する役割をもつ言葉として、後置副詞（ステップ 23 参照）があります。主な後置副詞を以下にあげます。

トゥラシ	turasi	～に沿って上手へ
エソロ	esoro	～に沿って下手へ
オシ	os	～の後から
トゥラ	tura	～と共に
アリ	ari	～で、～を用いて（道具・手段）

ステップ 34 「～も」「～だけ」副助詞

(例文)

- ケラアン ラタシケテ テエタ アナク アエ。  
 keraan rataskep teeta anak a=e.  
 おいしい 混ぜ煮 昔 は 人が・食べる  
 「美味しい混ぜ煮を昔は食べた。」
- ピリカノ ヤイコシラムスイパ ワ アカル ペ ヌカル ワ コラチ  
 pirkano yaykosiramusuypa wa a=kar pe nukar wa koraci  
 よく 考える て 人が・作る もの 見る て 同じように  
 イテセ エネ ケメイキ エネ エキ ナンコン ナ  
 itese hene kemeyki hene e=ki nankor na.  
 ゴザ織りする でも 裁縫 でも あなたが・する だろう よ  
 「よく考えて作るものを見て同じようにゴザ織りでも裁縫でもするので  
 すよ」
- ウナルペ カ チシ ア チシ ア。  
 unarpe ka cis a cis a.  
 おばさん も 泣く た 泣く た  
 「おばさんも泣きに泣いた」
- シネ イタンキ ポカ ホク ワ エク。 カタイキ ワ エク。  
 sine itanki poka hok wa ek. katayki wa ek.  
 一つのお椀 だけでも 買う て 来る 稼ぐ て 来る  
 「(お米を) せめてひと椀でも買ってきなさい。稼いで来なさい」

副助詞を用いた表現

日本語の「～も」「～だけ」のように、他の単語の後に置かれて、その単語を取り立てる役割をもつ言葉を副助詞といいます。

主な副助詞としては次のようなものがあります。

アナク (ネ)	anak (ne)	～は (主題)	(例文 1)
ヘネ、エネ	(h) ene	～でも (例示)	(例文 2)
カ	ka	～も (追加)	(例文 3)
パテク	patek	～ばかり (限定)	
パクノ	pakno	～まで (程度)	
ポカ	poka	～だけでも (最低限度)	(例文 4)
タプ	tap	～こそ (強調)	
エタプ	etap	～こそ (疑念)	
ヘタプ	hetap	～だか (疑念)	
エシタ	esta	～こそ (強調)	

ステップ 35 「…した」「これから…する」助動詞

(例文)

1. シサムイタク パテク シサム プリ パテク コル チ プ  
 sisamitak patek sisam puri patek kor ci p  
 日本語 だけ 和人の 習慣 だけ 持つ (複数) もの

エミナ ア エミナ。\*  
 emina a emina  
 笑う た 笑う

「日本語や日本の習慣だけの者は(アイヌ語で話すのを)さんざん笑った」

2. メユプケ ワ ウパシ ルプシ ワ ヘリアツ ヒ  
 meyupke wa upas rupus wa heriat hi  
 寒さがきびしい て 雪 凍る て 光る こと

アンヌカン ルウェ ネ ハウアン。  
 an=nukar ruwe ne haw'an.

人が・見る の だ だったのだなあ

「寒さがひどくて雪が凍って光っているのが見えていたのだった」

3. クイエ クスキ ア プ  
 ku=ye kuski a p  
 私が・言う つもりだ た もの

ク=オイラ ワ ヘンネ クイエ ハウアン。  
 ku=oyra wa henne ku=ye haw'an.

私が・忘れる て (否定) 私が・言う だったのだなあ

「私は言うつもりだったことを忘れて言わなかったのだった」

4. エチヌカラ アムキル ペ エンタ アナ? ヌカル ヤン。  
 eci=nukar amkir pe enta an ya? nukar yan.  
 おまえたちが・見る したことがある もの か ある か 見る なさい

「おまえたちが見た事があるものか?見なさい」

\*アン ヤ an ya は、ひとまとまりに発音されてアナとなります。

助動詞を用いた表現

「…したい」「…できる」のように、動詞の後におかれて、時間、推量、意志、能力などの意味を表す言葉を助動詞といいます。

主な助動詞としては、以下のようなものがあります。

ア	a	…した (完了)	(例文 1, 3)
ロク	rok	…した (完了)	
ハウアン	haw'an	…したのだった (事実の確認)	(例文 2, 3)
チ	ci	(複数)	(例文 1)
オケレ	okere	…し終える	
カネ	kane	…するほど (程度)	
カSPA	kaspa	…しすぎる	
ナンコロ	nankor	…するだろう (推量)	
ルスイ	rusuy	…したい (願望)	
エアシカイ	easkay	…できる	
エアイカブ	eaykap	…できない	
エトランネ	etoranne	…するのを嫌がる	
クスキ	kuski	…するつもりだ	(例文 3)
アムキル	amkir	…したことがある	(例文 4)

また、動詞と「…した」を表すア a やロク rok を繰り返すことで「何度もする」「…し続ける」という意味を表すことができます (ステップ 32 の例文 4、ステップ 34 の例文 3、ステップ 41 の例文 2)。なお、例文 1 のように繰り返さない例もあります。

ステップ 36 「…して」「…しながら」接続助詞 1

(例文)

1. カンナ カンナ スイ エチパイェカ                      ワ オロワ  
 kanna kanna suy eci=payeka                      wa orowa  
 再び            再び            また            おまえたちが・行き来する            て            それから

エチウウェペケンヌ。

eci=uwepekennu.

おまえたちが・尋ねる

「おまえたちは繰返しました通ってきてそれから質問をする」

2. タア クソイエネ イネ トオ クインカラ アクス  
 taa ku=soyene hine too ku=inkar akus  
 こう            私が・外に出る            てそして            遠く            私が・見る            と

トオ トウイマノ スプヤ ユツケ。

too tuymano supuya yupke.

ずうっと 遠く                      煙                      激しい

「ほら、私が外に出て遠く眺めたらずうっと遠くで煙がひどい」

\*ヒネ hine はイネと発音されています。

3. クイウタ アイネ クテケ ポツピセ オマ。  
 ku=iuta ayne ku=teke poppise oma.  
 私が・杵つきする            ついに            私の・手            まめ            入る

「私は杵つきをし続けて手に豆ができた。」

4. ノンノ クヌカル カネ クアン。\*  
 nonno ku=nukar kane ku=an.  
 花            私が・見る            ながら            私が・いる

「私は花をながめていた。」

接続助詞を用いた表現 1

接続助詞とは、日本語の「…しながら」「…して」のように、前の文と後の文をつなぐ働きをもつ助詞です。

接続助詞には前の文と後の文との時間的な関係（「…しながら…する」など）を表すものや、論理的な関係（「…したので…する」など）を表すものなどがあります。

このステップでは、主として時間的な関係を表す接続助詞について取り上げます。

- (1) 時間的な関係を表す場合、前の文と後の文が前後関係（「…して…する」）にあるのか、それとも同時的な関係（「…しながら…する」）にあるのかによって表現が区別されます。
- (2) 「…して…する」のような時間的な前後関係を表す場合には、**ワ wa** 「…して」や**ヒネ hine** 「…して」などが使われます（例文 1,2）。また、「…し続けてその結果」のような意味を表す場合には、**アイネ ayne** 「…したあげく」が用いられます（例文 3）。
- (3) 「…しながら…する」のような同時的な関係を表す場合は、**カネ kane** 「…しながら」が用いられます（例文 4）。静内方言では、**コロ kor** 「…しながら」を使う人もいます。

ステップ 37 「…なので」「…すると」 接続助詞 2

(例文)

1. テエタ アナク トペンペ カ イサム ペ ネ クス  
teeta anak topenpe ka isam pe ne kus  
昔 は お菓子 も ない もの だ から  
アサカンケ ワ アサッケ。  
a=sakanke wa a=satke.  
人が・茹で干しする て 人が・干す  
「昔はお菓子もなかったものだから（柏のドングリを）干して乾かした」
2. エチイララ ヤクン  
eci=irara yakun  
おまえたちが・悪さする たら  
ケラアン ペ ソモ アネチエレ ナ。  
keraan pe somo an=eci=ere na.  
おいしい もの (否定) 私がおまえたちに・食べさせる よ  
「おまえたちが悪さしたら美味しいものを食べさせないよ」
3. レラ アシ コオンノ プクサ ハム アナク トウルセワ イサム。  
rera as koonno pukusa ham anak turse wa isam.  
風 ふく と 行者ニンニク 葉 は 落ちる て しまう  
「風が吹くと行者にんにくの葉は落ちてしまう」
4. 「ケラアン ペ ネ ナ。エ！ エ！」アリ ハウキ コロカ イシトマ。  
“keraan pe ne na. e. e.” ari hawki korka isitoma  
美味しい もの だ よ 食べる 食べると 言う けれど 恐ろしい  
「『美味しいものだから食べなさい食べなさい』と言うけれど恐ろしい」  
【ウウェペケル】

接続助詞を用いた表現 2

このステップでは、主に「…するので（原因・理由）」、「…するために（目的）」、「…すると（条件）」、「…しても（譲歩）」、「…したところが（逆接）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1) 原因・理由の表現には **クス kus** 「…するので」という接続助詞が用いられます(例文 1)。目標の表現には **クニネ kunine** 「…するように(目標)」が用いられます。目的の表現には **クス kus** 「…するために」が用いられます。 **クス kusu** という形も使います。
- (2) 条件の表現には **ヤクン yakun** 「…したら」、**コンノ konno** 「…すると」などが用いられます(例文 2。例文 3 の **コオンノ koonno** も用います)。また、「…したところ」のような意味を表す場合には **アクス akus** が用いられます。
- (3) 譲歩の表現には **ヤッカ yakka** 「…しても」、**ヒケカ hikeka** 「…したのに」などが用いられます。また、逆接の表現には **コロカ korka** 「…するけれども」が用いられます(例文 4)。

ステップ 38 「…するように」 接続助詞 3

(例文)

1. トオニ       ワ   ネン   カ   エク   コトム   クインカル。\*  
 toon hi      wa   nen   ka   ek   kotom   ku=inkar.  
 あの   ところ   から   誰      か   来る   ように   私が・見る  
 「あそこから誰か来るように見えた」  
 \*トオン ヒ toon hi は、ひとまとまりに発音されてトオニとなります。
2. トペンペ   アンオ       ポコン   カ   トペン。  
 topenpe   an=o       pokon   ka   topen.  
 甘いもの   人が・入れる   みたいに   も   甘い  
 「砂糖を入れたみたいに甘かった」
3. ムンヌイエ   ソモ   キ   ノ   コポンチ   ポロンノ   オカ。  
 munnuye   somo   ki   no   koponci   poronno   oka.  
 掃き掃除する   (否定)   する   で   ほこり      たくさん   ある  
 「掃除しないでほこりがたくさんある」
4. ネプ   トオン   サラニプ   シク   ノ   オマ   ルウェ   タ   アン?  
 nep   toon   saranip   sik   no   oma   ruwe   ta   an?  
 何   あの      編み袋   一杯だ   で   入る   の      か   ある  
 「何が、あの編み袋一杯に入っているのですか？」

接続助詞を用いた表現 3

このステップでは、主に「…するように(推定)」、「まるで…するかのよう(比況)」、「…しないで(否定)」、「…する様子で(状態)」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1) 推定の表現にはコトム kotom 「…しように、…するらしく」などが用いられます(例文 1,2)。
- (2) 比況の表現にはポコン pokon 「まるで…みたいに」が用いられます(例文 3)。
- (3) 否定や状態の表現にはノ no 「…(する状態)で」が用いられます(例文 4,5)。

ステップ 39 接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1

(例文)

1. **ネプ クス ウン コルシ セッセルケ カネ アン。**  
 nep kus un korsi sesserke kane an.  
 何 ゆえに (強め) 子ども しゃくりあげる ながら いる  
 「どうしてだか子どもがしゃくりあげて泣いてる」
  
2. **エカシ フチ イコオンヌオンヌ カネ オカ。**  
 ekasi huci i=koonnuonnu kane oka.  
 祖父 祖母 私たちを・かわいくて喜びの声を出す ながら いる  
 「祖父と祖母は私たちのことがかわいくて喜びの声を出していた」
  
3. **クウンテレ ワ クアン。**  
 ku=untere wa ku=an  
 私が・人待ちをする て 私が・いる  
 「私は人待ちをしていた。」
  
4. **エトウママ フプ ポコン カ アン。 イヤイキフテ。**  
 e=tumama hup pokon ka an. iyaykipte.  
 おまえの・体 腫れる みたいに も ある おそろしい  
 「おまえは体が腫れたみたいになっている。おそろしい」
  
5. **トオン セタ エンシケライカ。 ウエン サンペ コロ コトム アン。**  
 toon seta en=sikerayka. wen sampe kor kotom an.  
 あの 犬 私を・にらむ 悪い 心 持つ ように ある  
 「あの犬は私をにらんでいる。悪い心をもっているようだ」

接続助詞と補助動詞を用いた表現 1

接続助詞 (ステップ 36 参照) と、**アン an** (複数形**オカ oka**) 「～がある、いる」などの動詞 (補助動詞) が組み合わせられ、「…している」「…しつつある」などの意味が表されることがあります。

なお、これらの表現では、補助動詞にも人称接辞がつけられます。

- (1) 動作や変化の進行を表す表現には、**カネ アン kane an** (複数形**カネ オカ kane oka**) 「…しつつある」などが用いられます (例文 1,2)。**コロ アン kor an** (複数形**コロ オカ kor oka**) 「…しつつある」、も使われます。
- (2) 動作や変化の結果の状態を表す表現としては**ワ アン wa an** (複数形**ワ オカ wa oka**) 「…している、…してある」が用いられます (例文 4)。
- (3) 推量の表現の表現には**コトム アン kotom an** 「…するらしい」、比況の表現には**ポコン アン pokon an** 「…するみたいだ」などが用いられます (例文 5 は、**ポコン アン** の間に副助詞**カ ka** 「も」が置かれています)。

ステップ40 接続助詞と動詞を組み合わせた表現2

(例文)

1. **ケラアン** **ペ** **ネ** **ナ。** **エ** **ワ** **イヌ!** \*  
 keraan pe ne na. e wa inu!  
 美味しい 物 だ よ 食べる て 聞く  
 「おいしいものだぞ。食べてみなさい」
2. **イワタラ** **キシマ** **ワ** **インカラ!** \*  
 iwatarap kisma wa inkar!  
 赤ちゃん 抱っこする て 見る  
 「赤ちゃんを抱っこしてみなさい」
3. **プクサ** **ペウレ** **ワ** **クサツケ** **プ** **ネ** **ア** **プ、**  
 pukusa pewre wa ku=satke p ne a p,  
 行者ニンニク 若い て 私が・干す 物 だ た が  
**ル** **ワ** **オケレ。**  
 ru wa okere.  
 溶ける て 終える  
 「行者にんにくが若くて、干したものだだったのに、溶けてしまった」
4. **タン** **コタン** **ウシ** **ワ** **イサム。**  
 tan kotan us wa isam.  
 この 村 消える て 無い  
 「この村は消えてしまった」
5. **タアン** **ペ** **セ** **ワ** **エンコレ** **ヤン。**  
 taan pe se wa en=kore yan.  
 この 物 背負う て 私に・与える なさい  
 「これを背負って下さい」

接続助詞と補助動詞を用いた表現2

前のステップで取り上げた接続助詞と補助動詞の組み合わせには、他にも様々なものがあります。

- (1)「…してみる」という表現には**ワ イヌ** wa inu 「…してみる」、**ワ インカラ** wa inkar 「…してみる」が用いられます(例文 1,2)。どちらの表現をつかうかははっきりしている方言もありますが、静内方言でははっきりしません。

織田さんの用例では、つぎのような動詞が確認できています。

**ワ イヌ** wa inu  
 を使った動詞

**アプカシ** apkas 「歩く」、**イエ** ye 「～を言う」、**エ** e 「～を食べる」、**プニ** puni 「～を持ち上げる」、**オプトウイエ** oputuye 「～を押す」、**コウウェペケンヌ** kouwepekennu 「～に尋ねる」、**テンパテンパ** tempatempa 「～を触る」

**ワ インカラ** wa inkar  
 を使った動詞

**アシ** as 「立つ」、**オマレ** omare 「～を～に入れる」、**パイエ** paye 「行く」、**ピタタ** pitata 「～をほどく」、**キシマ** kisma 「～を抱く」

- (2)「…しておく」という表現には**ワ アマ** wa ama が用いられます。

- (3)「…してしまう」という表現には**ワ オケレ** wa okere または**ワ イサム** wa isam が用いられます(例文 3,4)。

- (4)「…してくれる」という表現には**ワ コレ** wa kore が用いられます(例文 5)

単語を覚えよう5 ～程度を表す言葉～

1.	ハウケノ	hawkeno	「静かに」
2.	ユプケノ	yupkeno	「激しく」
3.	エムコタ	emkota	「早く」
4.	ラッチタラ	ratcitarā	「ゆっくりと」
5.	ピリカノ	pirkano	「きれいに」
6.	イオッタ	iotta	「一番に」
7.	エクスコンナ	ekuskonna	「突然に」
8.	ソンノ	sonno	「ほんとうに」
9.	ウオヤイキンネ	uoyaykinne	「あれこれと」
10.	アシリキンネ	asirikinne	「新しく」

さまざまなイポロセ5

十勝地方

◇芽室太のタップカ「踏み舞」

タネアナクネ ラカ イサム オンネ プクネ クス ンン  
tane anak raka isam onne p ku=ne kusu nnn  
今や何の甲斐もない年寄りとなりましたので

シクブ アイヌ ウタリ オツカイ シクブ ウタラ  
sikup aynu utari okkay sikup utar  
若い者たち 若い男たち

シクブ メノコ ウタラ エカッタラ コクシシノポ  
sikup menoko utar ekattar kokusisno po  
若い女たち 子供たちとともに

イワンケノポ ウオオンフウオ!  
iwankenno po uoo nn huo!  
達者で(暮らしすように)

クオンカミ ハウ エシタパン ナ。  
ku=onkami haw estap an na.  
私は拝礼するのです。

(語り手：高橋勝次郎さん)

☆語り手の高橋さんが、芽室太出身の小川エタイェクルというエカシのタップカを思い出して演じたものです。高橋さんがふだん演じていたタップカとは節が違いますが言葉運びは似ています。

☆この歌を収録するにあたり、『東北北海道のアイヌ古謡録音テープ』の内容調査研究』アイヌ文化研究会(「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第8号下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構2009年)を参照しました。

ステップ41 「…だよ」「…ですか」終助詞

(例文)

1. ポロンノ クニナ ワ アン ナ, ルラ ヤナニ!  
 poronno ku=nina wa an na, rura yan ani!  
 たくさん 私が・薪をとる て ある よ 運ぶ なさい ね

「たくさん薪をとってあるよ。運びなさいな」

\*ヤン アニ yan ani は、ひとまとまりに発音されてヤナニとなります。

2. ネアン ペ イエ ランケ  
 nean pe ye ranke  
 その もの 言う たびに

チシ ア チシ ア ルウエ エシタ アン ネ。\*  
 cis a cis a ruwe esta an ne.  
 泣く た 泣く た の よ

「そのことを言うたびに泣いて泣いたのですよ」

3. コラチ クアニ カ クオンネ ワ。  
 koraci kuani ka ku=onne wa.  
 同じように 私 も 私が・年を取る て

「同じように私も年をとったよ。」

終助詞を用いた表現

文の最後におかれて、疑問や命令、確認などの意味を表す言葉を終助詞といいます。主な終助詞としては以下のようなものがあります。

ナ	na	…(する)ぞ(聞き手への促し)	(例文1)
ネ	ne	…よ(説明)	(例文2)
ワ	wa	…よ(説明)	(例文3)
アニ	ani	…しなさいね(言い聞かせ・念押し)	
ヤン	yan	…しなさい(複数・丁寧な命令)	
ロ	ro	…しよう(勧誘)	
ヤ	ya	～か(疑問)	

なお、ヤン yan 「…しなさい」は複数形の動詞とともに使われ、2人以上の相手への命令、または1人に対する丁寧な命令を表します

(例：アルキ ヤン arki yan 「来なさい」、アルキ arki はエク ek の複数形)。

ステップ 42 形式名詞による文末表現 1

(例文)

1. クイタンキオシプ カネ クイペ ルウエ エシタ アン ネ。  
 ku=itankiosip kane ku=ipe ruwe esta an ne.  
 私が・おかわりする ながら 私が・食べる の こそ ある よ  
 「私はおかわりしながら食事したんですよ」
  
2. ネアン ペ イエ ランケ  
 nean pe ye ranke  
 その もの 言う するたびに  
 チシ ア チシ ア ルウエ エシタ アン ネ。\*  
 cis a cis a ruwe esta an ne.”  
 泣く た 泣く た の よ  
 「(祖母は) そのことを言うたびに泣いて泣いたんですよ」
  
3. ネプ クス ヤイキマテッカ ワ ホシピ ワ イサム ア  
 nep kus yaykimatekka wa hosipi wa isam a  
 何 ために 急ぐ て 帰る て 無い た  
 ルウエ エネ アニ アン。  
 ruwe ene an hi an.  
 の こう ある こと ある  
 「どうして急いで帰ってしまったのだろうか」【カムイユカル】  
 \*アン ヒ an hi は、ひとまとまりに発音されてアニとなります。
  
4. アイヌ ウタラ カ ライ ワ オケルパ ルウエ エネ オカ イ アン。  
 ainu utar ka ray wa okerpa ruwe ene oka hi an.  
 人間 たち も 死ぬ て 終える の こう ある こと ある  
 「人間たちも死んでしまったでないか」【カムイユカル】  
 \*ヒ hi はイと発音されることがあります。

形式名詞を用いた文末表現 1

形式名詞(ステップ 30 参照)は様々な動詞や副助詞、終助詞などとともに、文末表現をつくります。

- (1) 聞き手に事情を説明する場合には、「形式名詞+エシタ esta + アン an + ネ ne」という表現が用いられることがあります(例文 1, 2)。
- (2) 驚きの気持ちを表す場合には、「形式名詞+エネ ene + アン an + ヒ hi + アン an」(例文 3)や「形式名詞+エネ ene + オカ oka + ヒ hi + アン an」(例文 4)という表現が使われることもあります。

## ステップ43 形式名詞による文末表現2

(例文)

1. ネン カ ウク ア ルウエ ヘンネ エンタ アナ?  
 nen ka uk a ruwe henne enta an ya?  
 誰 か 取る た の (否定) か ある か  
 「だれかが取ったんじゃないですか?」  
 \*アン ヤ an ya は、ひとまとまりに発音されてアナとなります。
2. アウタリ ウタラ イワンケ ワ オカ ルウエ ヘ アン? \*  
 a=utari utar iwanke wa oka ruwe he an?  
 私達の・親戚 たち 元気だ て いる の か ある  
 「私たちの親戚は元気でのかなあ?」
3. タント アナク ソモ アルキ ルウエ ヘ アン?  
 tanto anak somo arki ruwe he an?  
 今日 は (否定) 来る の か  
 「今日は、彼らは来ないのかな?」
4. エノン パイエ ワ オハシル アン ルウエ タ アン?  
 enon paye wa ohasir an ruwe ta an?  
 どこへ 行く て 留守の家 ある の いったい ある  
 「(彼らは) どこへ行って留守だったのですか?」
5. ネフ エチエミナ シリ タ アン? \*  
 nep eci=emina siri ta an?  
 何 おまえたちが・笑う 様子 か ある  
 「あなたたちは何を笑っているの?」
6. ネコン イキ ワ ラタシケフ スイエ ハウエ タ アン?  
 nekon iki wa rataskep suye hawe ta an?  
 どう する て 山菜 煮る 声 か ある  
 「どのようにして山菜を煮るといいますか?」

## 形式名詞を用いた文末表現2

前のステップで取り上げた形式名詞による文末表現は、他にも様々なものがあります。

- (1) 「はい」「いいえ」で答える疑問の表現の場合、「形式名詞+ヘンネ henne + エンタ enta + アナ an + ya?」が用いられることがあります(例文1)。
- (2) 「はい」「いいえ」で答える疑問の表現の場合、「形式名詞+ヘ he + アン an?」が用いられることがあります(例文2)。
- (3) 疑問詞疑問文の場合、ルウエ タ アン ruwe ta an(例文4)、シリ タ アン siri ta an(例文5)、ハウエ タ アン hawe ta an(例文6)も用いられます。

ステップ 44 「…と」引用の表現

(例文)

1. 「アイヌパタ ウン」 アリ フチ ウタル イコイトウパ。\*  
 “aynupata un” ari huci utar ikoytupa.

「うらやましいなあ (強め) と 祖母 たち うらやむ

「『うらやましいなあ』と祖母たちがうらやんだ」

2. 「ピリカ ウウェペケル ピリカ ユカル コカヌ ワ コラチ  
 “pirka uwepeker pirka yukar kokanu wa koraci

良い 散文説話 良い 英雄叙事詩 よく聞く て 同じように

ケウトウム コロ」 アリ オンネ フチ エイエ。\*  
 kewtumu kor” ari onne huci en=ye.

気持ち 持つ と 年老いている 祖母 私に・言う

「『よい散文説話よい英雄叙事詩をじっくり聞いて同じように心がけなさい』と年老いた祖母が私に言った」

3. ハポ ワッカ ク ルスイ クス ヘンネ イエ ア? \*  
 hapo wakka ku rusuy kus henne ye a?

お母さん 水 飲む たい と (否定) 言う た

「お母さんは水が飲みたいと言わなかった?」

4. ニコロ マメ ネ ヤカイエ ラタシケプ\*  
 nikor mame ne yak a=ye rataskep

支柱を持つ 豆 である と 人が・言う 作物

「手あり豆という作物」

\*ヤク アイエ yak a=ye はひとまとまりに発音されてヤカイエとなります。

5. レラ イサム クニ クラム。  
 rera isam kuni ku=ramu.

風 無い と 私が・思う。

「風がないと私は思った」

引用の表現

誰かの言葉などを引用する表現には、様々なタイプがあります。

(1)相手の発言などをそのまま引用する場合には、**アリ ari**「～と」が用いられます(例文 1,2)。

(2)相手の発言を間接的に引用する場合には、**クス kus**「…すると」、**ヤク yak**「…すると」、**クニ kuni**「…するだろうこと」などが用いられます(例文 3,4,5)。

参考文献

文法解説の作成にあたっては、主に以下の文献を参考にしました。

- 浅井亨(1969)「アイヌ語の文法—アイヌ語石狩方言文法の概略—」アイヌ文化保存対策協議会(編)『アイヌ民族誌』下:771-800. 第一法規.
- 知里真志保(1942)「アイヌ語法研究」『樺太庁博物館報告』4(4)(『知里真志保著作集』第3巻,平凡社,1973所収).
- 北海道ウタリ協会(編)(1994)『アコロ イタッ AKOR ITAK アイヌ語テキスト1』クルーズ.
- 金田一京助(1931)『アイヌ叙事詩ユーカラの研究』第2巻. 東洋文庫.
- 金田一京助・知里真志保(1936)『アイヌ語法概説』岩波書店(『知里真志保著作集』第4巻,平凡社,1974所収).
- 切替英雄(1996)「アイヌ語十勝方言による昔話「島を引いて泳ぐオタスの少年の物語」の辞典と文法(1)」『北海学園大学学園論集』88:123-286.
- 切替英雄(1998)「アイヌ語十勝方言による昔話「島を引いて泳ぐオタスの少年の物語」の辞典と文法(2)」『北海学園大学学園論集』98:315-49.
- 中川裕・中本ムツ子(1997)『エクスプレス アイヌ語』白水社.
- 中川裕・中本ムツ子(2007)『カムイユカラでアイヌ語を学ぶ』白水社.
- 佐藤知己(2008)『アイヌ語文法の基礎』大学書林.
- 田村すず子(1988)「アイヌ語」亀井孝・河野六郎・千野栄一(編)『言語学大辞典』1:6-94. 三省堂.

また、本書に収録した静内方言の例文・単語の意味記述、文法解説をおこなう際に、聞き取り調査による資料(財団法人アイヌ民族博物館所蔵 織田ステノ氏 音声資料)に加え、以下の文献を参考資料として利用・引用しました。

Kirsten Refsing (1986) "The Ainu Language" Aarhus University

- 北海道教育庁社会教育部文化課(編)(1984)『昭和58年度アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査III)』北海道教育委員会.
- 北海道教育庁社会教育部文化課(編)(1985)『昭和59年度アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査IV)』北海道教育委員会.
- 淵上雪湖(1984)「アイヌ語の否定辞—静内方言を中心に」(卒論発表)「北方言語・文化研究会成果報告(12)1983年4月-7月」『早稲田大学語学教育研究所紀要』28:124-128
- アイヌ民族博物館(1986)『アイヌと野鳥I』
- アイヌ民族博物館(1989)『アイヌと植物<食用編>』
- アイヌ民族博物館(1993)『アイヌと植物<樹木編>』
- 北海道教育庁教育部文化課(編)(1989)『平成63年度アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズIV アイヌのくらしと言葉』1
- 北海道教育庁教育部文化課(編)(1991)『平成2年度アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズIV アイヌのくらしと言葉』2
- 志賀雪湖(1992)「テエタコラチーむかしどおりに—」『アイヌ文化』17、アイヌ無形文化伝承保存会
- 静内町教育委員会(編)(1991)『静内地方の伝承(Ⅰ)—織田ステノの伝承(1)—』
- 静内町教育委員会(編)(1992)『静内地方の伝承(Ⅱ)—織田ステノの伝承(2)—』
- 静内町教育委員会(編)(1993)『静内地方の伝承(Ⅲ)—織田ステノの伝承(3)—』
- 静内町教育委員会(編)(1994)『静内地方の伝承(Ⅳ)—織田ステノの伝承(4)—』
- 静内町教育委員会(編)(1995)『静内地方の伝承(Ⅴ)—織田ステノの伝承(5)—』
- 北海道ウタリ協会(編)(1994)『アコロ イタッ AKOR ITAK アイヌ語テキスト1』クルーズ.
- 奥田統己(1995)「アイヌ語静内方言の接続助詞」『北海道立アイヌ文化研究センター研究紀要』1:139-159
- 奥田統己(1997)「アイヌ語静内方言の副助詞と終助詞」『北海道立アイヌ文化研究センター研究紀要』3:195-214
- 奥田統己(1998)「アイヌ語静内方言の後置副詞」『北海道立アイヌ文化研究センター研究紀要』第4:127-149
- 奥田統己(1998)「織田ステノのイコベプカ」『北海道立アイヌ文化研究センター研究紀要』4:101-126
- 奥田統己(1999)「アイヌ語静内方言の格助詞」『北海道立アイヌ文化研究センター研究紀要』5:153-169
- 奥田統己(1999)『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集(CD-ROMつき)』札幌学院大学
- 奥田統己・林誠・田村すず子(2003)『アイヌ語静内方言の音声資料—田村すず子採録 織田ステノさんと虎尾ハルさんの口頭文芸と会話』文部科学省特定領域研究 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究成果報告書A2-032
- 奥田統己(1999)石井米雄、千野栄一(編)『世界のことば100語辞典』三省堂
- 奥田統己(2003)石井米雄、千野栄一(編)『世界のことば・出会いの表現辞典』三省堂

中級アイヌ語 ー 静内 ー

発行年月 2012年3月

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
〒060-0001  
北海道札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7 5階  
TEL (011) 271-4171 FAX (011) 271-4181  
URL <http://www.frpac.or.jp/> E-mail: [ainu@frpac.or.jp](mailto:ainu@frpac.or.jp)

印刷 株式会社美巧製版